るのである。第一の慾望が充足されて次に起る第二の慾望は、多くの場合に第一の慾望と同じでなく、また同じであつても量が違ふのである。第二の慾望を遂げる爲には第二の努力を要し、それが達せらるゝと第三の慾望が起るといふやうに進むのであるから、WとEとSとは圓をなすのでなく寧ろ螺旋狀を描くのである。私は斯う訂正したいと思ふが、碩學マーシャルを後楯として遠慮なく唱へらるゝのである。かくて慾望も進めば努力が之に伴ひ滿足も益々大きくなるといふ、其所に人類の向上と發展とがあると申してよかろうと思ふ。

私等の生活に於ても、役所に出て書類を見たり訪問を受けたりして居る。それで直接米などは出來ぬが、併しそれでもいくらか世の爲人の爲になつてゐるので、日々の仕事に對して努力することは即ち社會の富を作るにあるので、その代り俸給を貰つて居るのである。吾人は食ふ爲に働くのでないと壯語することがある、實際さう考へて居らねばならぬ次第もあるが、確に食はんが爲に働いて居るに相違ないので、昔樂園を追はれたアダムは「額に汗して働いて活きよ」と命ぜられた。それ以來の人類は働いて生きてゐるのである。直接衣食の原料を生產せないでも、何か必ず經濟學上の生產を爲さねばならぬのである。此の生產を爲すことは、即ち一の職業に從つて出來るので、人の懷を當にして生活して行くのは決して名譽ではない。此の職業を完全にし得るやう、その實技能力を磨かねばならぬので、所謂職業教育が必要となり、實業科を教へねばならぬことになる。而して此の實業によつて共存共榮の社會に生活して行くので、そこに孤立でなく社會人の教養が必要となるので、ホントに幸福な生活をなすことが即ち修養ともなるのである。公民科と職業科と一致して行かねばならぬ理由は此處にある。

されど智識や技術のみでは立派な生活は出來ぬもので、眞にその人の技量といふものは又一寸別に考へねばならぬものがある。例へば自然を了解する爲に植物や動物や

礦物の學があるが、自然は植物でもなく鑛物でもなく夫等の物の總てが混和統一されたものである。近頃自然研究と呼ばれて盛に唱へらるゝ樣になつたのは喜ぶべきで、之は兒童や生徒を野原に連れて行つて、偉大なる自然の中に融和混一されて居る森羅萬象をば、實地に見せて研究せしむる方法である。單に植物だけを切離して說くのではなく、鑛物だけ取離して敎へても徹底せぬからであるが、此の統一といふか綜合といふか、其處に眞に役に立つ物の分つた才能力量が表はれる。生活に即した敎育法をやらねばならぬといふのは、此の邊の意義が深いのである。又生活である所の職業實科を以て敎授し指導するといふ妙味がある所以である。讀方や算法を端的に敎へ込んでも役立たぬといふのは、此の統一に缺けるからである。實科殊に農業は何よりも立優つて、此の統一綜合を助くるに便利なものである。實業科は單に實益功利のみでなく、自然研究のやうに生活上の纏つた理解を與へるもので、敎育の眞面目たる自我の發揮、個性の完成といふことに甚大な關係があるのである。

思ふに過般の大戰で世界の文明發展の方角は一轉したので、從來の利益本位……貨幣を唯一の標準とした資本主義は大に改められねばならぬ世となつた。元來品物を造るのは使ふ爲であるが、無暗に大量生產をやつて早く賣り捌かうとするから、盛に廣告をやらねばならぬといふことになり、近頃は到る所にいやでも見聞せねばならぬやうに廣告される世の中……誠に迷惑至極である。生產は手段に過ぎぬので消費を本位とするやうに、即ち生活と云ふ事に基いてすべての事を考へねばならぬ、幸福な愉快な生活は金も入用だが金ばかりでは出來ぬ。近頃喧しい農村の疲弊といふ事も、一は自然經濟で暮した農家が市場經濟に變つた世に處して、十分に時勢に適應せぬといふ所にあると思はれる。

人間の慾望は無限に增大するもので、そこに進步もあるのであるが、それかと云つて其の慾望をのみ追ふて、生產の努力に焦せつても良くないと思ふ。事により場合に

よつては足らないものを足りるとすることが肝要で、即ち克己とか自制とか云ふことからの教訓を深く考へねばならぬ。イギリスの哲人カーライルは此の事を分數式に表はして教へたが、前に述べた謂はゆる人生の公式に使つたと同じ符號で示せば、次のやうな一つの式が出來る。

$$\frac{E}{W}=S$$

滿足(S)を大ならしめようとして、努力(E)を盛に大きくしようとするのが現狀であるが、如何に努力を大にしても其の分母である慾望(W)が愈々增大すれば甲斐はない。Eが如何に大でもWが極大であれば滿足Sは極小たらざるを得ぬので、若しEは左程でなくともWを假に極小とすれば

$$\frac{E}{0}=8$$

となつて、極大の滿足を得らるゝ譯である。此の點へ行くと經濟上の問題でなく哲學上の問題ともいふべく、確固たる人生觀から來ねばならぬ。或は宗教的な堅忍不拔な信念だと考ふべきであらうと思ふ。されば補習教育に於ても此の人生觀を築き上げしむる、此の信念を確立せしむるといふことが大目的である。かくして初めて安心した滿足した此の世の生活が出來るのである。單に職業に關する技能や公民としての智識を授けて補習教育の任務は盡し得たとは決して考へられぬのである。人生の危機にある迷ひ易い青年を眞に立派な人たらしめる。眞善美を理想として迷はず正道を踏んで進むやう導かねばならぬ。これが實業補習教育でも大に努むべきことゝ信ずる。

（大正一四、一〇　高知にて）

夕日影匂へる雲のうつろへば
蚊遣火くゆる山もとのさと

七　農村成人教育

成人教育の大勢

成人教育と言へば、子供の教育でないことは分つて居る、それから青年の教育でもない、大人の教育である。大人の教育と云つて、どんな大人に對しても皆成人教育かと云ふと、さうではないやうに思ふ。即ち、若い時に十分教育を受けた者に對しては成人教育の必要は無いと云ふのであつて、若い時分によく教育を受けなかつた大人に對する教育が成人教育であらう。

斯ういふ意味で考へて見ると、成人教育と云ふのは決して新しいことでない、隨分古い時代から何處の國にも行はれて居つたやうに思ふ。ユーロプで言へば、耶蘇教の聖書を教へて讀ませるやうにした、さう云ふことが最初の起りであつたと見える。日本でもさうであつたらしく、一番初めの成人教育は、僧侶の說教であつたと云つてよからう。それから、また德川時代に殊に大阪で榮えた心學道話と云ふやうなものは、今日から見て立派な一の成人教育であつたらしく思はれる。けれども、さう云ふものに淵源を遡ることが出來るにしても、今日の謂はゆる成人教育は十九世紀の半ば以後に發達し、而も殊に最近に、此の運動が盛んに起つたと云ふ風に見られて居る。それには色々の動機があるやうであるが、例へばイギリスに就いて見れば、ピープルスカレヂ（庶民大學）と云つて、マウリスとかキングスレーとか、トーマス・ヒューズと云ふやうな人達が、頻に主唱して運動を起したものが、眞に形を成したと言ふか、本道を辿つた所の成人教育と云ふものゝ起りであらう。それから色々の運動に依つて例へば大學擴張（ユニバシチーエキステンション）とかセツトルメントとか、勞働組合、產業組合と云ふやうなもの、力により發達したのであるが、最近十年か二十年間に急に發展した。その原因は全く社會進步の趨勢に由つたもので、交通の發達、科學の進步によつて世が急激に變遷する、殊に自由主義やデモクラシーの發達に伴つて起つたと思ふ。

ドイツに於ても一八七一年頃に「國民教育普及會」が組織され、ベルリンにフンボルト・アカデミーが設立されて通俗講義をやつたのを斯教育の起原だといふが、一九〇〇年以後に隨分骨折つて榮えても居たとはいへ、實は矢張り大戰後に起つたと云つてよい。一九一九年の二月及び四月に出たプロシヤ文部大臣の布告は、ドイツで眞に成人教育の精神を捉へた殆ど最初とも見るべきで、個人には元より澤山分つたものがあつたが、國として以前には十分に此の意味を汲み兼ねたらしい。その布告の中に

「講義は必ず討論を伴はねばならぬ……講師と講習生とは個人的に親密な接觸がなければならぬ……庶務は講習生中から選ばれた代表者が取る……協同研究（アルバイツゲマインシャフト）だ……筋肉勞役者と學問研究家との連結……半可通なま嚙りを警戒する……」

などあるのは、能く眞髓を穿つて居る。イギリスのマンスブリヂといふ人が「ワークメン・エヂケーション・アツソシエション」（勞働者教育協會）を組織したのは、今から二十年程前で、それ以來此の運動は世界的になつたが、殊に戰後を承けて大に發達し、マ氏は更に「國際成人教育聯盟」といふのを組織し、今や各國から代表者が參集して協議するといふまでになつた。我が邦はいつも輸入が好きであるが、たゞ一時の流行として此の大事な運動を過させたくないものである。

斯ういふのが現在に於ける成人教育の大勢であるが、一般の成人教育は主として都會に發達したので、農村に於ける斯教育は、矢張り概して遲れて居つたと云はなければならぬ。而も農村に於ける成人教育は、都市に於てよりも一層必要だと唱へられて居るので、其の理由は色々に說くことが出來ようが、矢張り時勢の推移社會事情變遷の結果である。現代の大問題たる世界を通じた農村の衰頽は何に因つて起るかと云ふと、是も色々の原因を數へ上げなければならぬが、要するに社會が進步し世が發達したからである。妙な言ひ方であるが、人類の文化が向上したから農村問題は起つたの

である。詰り教育が進んだから農村問題が起つたと言ひ得る一面があつて、現に日本でも農村に於ける教育を呪ふと云ふ人も無いでもない實際である。確に左樣に考へられる點もあるといふのは、昔のやうに農民が運命であると諦らめて「自分は百姓に生れたのであるから、迚も美味い物は食へない、綺麗な衣服は着られない、それは仕方がない」と諦らめて居る間は宜いが、さう諦らめられないで「我も一個の獨立した國民である、何時も下敷にばかりなつて居るに及ばぬ」と考へて來るから、謂はゆる農村問題と云ふものが起つたのである。斯ういふ次第で、此の農村問題を解決するには各種の方策によらねばならぬが、人の考方が根底にあるから是非その人の教育に重きを置かねばならぬ。一面は教育に因つて起つたのであるが、其の根本は矢張り教育に依つて解決するより外に途がない。茲に於て、農村に於ける成人教育と云ふことが大に考へられるので、且又先般の大戰爭が更に其の急に迫つてゐることを明示したのである。イギリスでもアメリカでもドイツでも、農村の子弟が澤山徵集されて行つた、其の中に無學者が實に多かつたのである。是程ではあるまいと思つて居たが、意外に多いので驚いて之ではならぬと皆感じたのである。尙戰地で久しく群集的の生活に馴れた者が、淋しい農村に歸つて舊のやうに落着いて仕事をすることが出來ないと云ふ事實が著しく現はれた。是等に對して何とかせなければならぬ、或一種の教育を施さなければならぬといふので、農村に於ける成人教育と云ふことが大いに叫ばれるやうになつたと思はれる。

それで成人教育は各方面に賛成を得て居り、一般に反對することはないのであるが妙なもので、相互に極端に反對して居る者の間に少し議論がある。其の一は或種社會主義者―破壞主義者と言つても宜いか知らぬが、其の中の最も極端な分子が、成人教育に對して可なり强硬な反對をして居る。もう一つは社會主義に全々反對して居る所の謂ゆる保守主義者、その中の最も保守な一部が此の成人教育に反對して居る。是は

妙な現象であるが、事實さう云ふことになつて居る。何故に此の兩極端の互に相容れぬものが、相共に成人教育には賛成せぬのであらうか。其の理由とする所は、全々違つた立場からであるから面白い。極端な社會主義者の反對は、「成人教育と言つて勞働者を集めて、資本家が金を出して教育をする。政府にあるもの其の他の支配階級に屬するもの、又は大學の先生だとか教育者と云ふ人々が干與するのである。是即ち、勞働者を巧く手なづけて行くのである、恩惠的に、昔から行はれた怖ろしい常套手段である。斯う云ふ妥協的のものに應じてはいけない」斯う云ふやうなのが、極端な社會主義者の反對する理由である。もう一つの極端なる保守主義者の反對する理由は、「近頃の人民殊に青年は段々生意氣になる、兎角に身分を忘れて秩序を保たなくなる、それ等に教へた所が分からない、愚民に對してやれ思想がどうの經濟がどうの政府がどうであると說いてやるのは、彼等をして益々不安ならしめ、不平の種子を播くやうなものである、社會の革命を誘ふやうな結果に終るから宜しくない」斯ういふ考で、昔からある『民をして縁らしむべし知らしむ可からず』と云ふ意味で反對する。此等の兩極端な反對者の外は、何れも成人教育に賛成し其の必要を叫んで居る。

時勢の變遷

過般の大戰爭は、實に各般のことに大影響を與へて變動を起さしめ、殆ど革命を起したといつてよい點も見られる。かの前代未聞といふ著大の發達を成し遂げた、十九世紀の幕はフランス革命に依つて開かれたといふが、此の二十世紀の幕は先般の戰爭に依つて開かれた。此の大戰爭が一つの境目を爲して、其の前後は大變な違であると思はれる。私共は現在に生きて居て、現實の變化が如何に起つて居るかと云ふことは明かでありませぬが、是から五十年なり百年なり後で、現代を遡つて見たら非常に著しい、恰度今から百年前の革命時代のことを顧みると同じやうな大變化が現に起りつゝあるのでは無からうか。

綠化運動　斯う想像し信ぜらるゝのであるが、其の變化の中で茲に最も著しいもの

を擧げて見れば、所謂プロレタリアの運動、或は赤化運動などゝ呼ばれて居るのは其の一つであらうと思ふ。そのことは茲に記述する必要はないと思ふが、其の赤化運動に對してもう一つ、同樣に色に因みて綠の運動と言つてよいのがある。赤化はロシアを本據としたプロレタリアの運動であるが、綠化は農民の運動で其の本營はバルカン半島にあると云つてもよからう。此の事を精しく論述するには、色々のことを說かねばならぬので到底出來ぬが、農業も一の經濟行爲であるから、いつでも其の趨勢に隨つて變遷する、變遷の結果として新に農業黨の勃興となつたのである。

古の農民は何處でも自給自足であつたが、それが經濟學の進步に連れて、謂はゆる資本主義の發達に連れて、何でも大きく儲けなければならぬと云ふので、イギリスに於ては百五十年許前に、農業界に一大變動が起つて、かの產業革命の先驅を爲した。他のユーロプ諸國にも波及して、中小農は漸次に衰へるといふことになつた。日本にも明治維新この方同樣な現象が起つたので、農に從事して唯それに依つて生活をして居るだけでは詰らない、之を一の立派な產業となし、それに投じた資本勞力に對して十分報酬があるやう、利益を多く擧げなければならぬといふのである。工業が小さな手道具でやるのを止めて大きな工場の機械生產になつたやうに、又小賣商から大きな會社組織のデパートメントストアなどになつやうに、農業に於ても大經營で收入を多大にせねばならぬといふやうになつて來た。

所が他方には、農業は如何にしても左樣な資本主義でばかりは行けぬといふ論もあり、殊に先般の大戰後は色々な說が出たので、それよりかも寧ろ中小の自營自作の農業を盛にしなければならぬ、中堅の農業者を保持せなければならぬといふ事になつた。近代のユーロープ各國の農政の歷史を見ても、皆軌を一にして其の方面に向つて來たのである。例へば、イギリスなどで大面積の所を分割して相當の農場とし、それを實際働くところの百姓に貸し與へるか、又はそれを買はしめると云ふやうな手段を講じて居た。是が農業上最も大切な政策の一として努めて來たので、其の意義が此の大戰

爭と云ふ經驗を嘗めて更に明瞭になつたと言つてよい。今までは兎角文明が都會に偏し何事も重きを商工業に置いて居た弊があるが、それではいかないので農業の重要さを事實に於て認めねばならぬと云ひ、大戰後の各國の情況を見ると農業者が段々勢を得て、例へば政治界に於ても農業黨と云ふやうなものが本統に現れて來た。無論昔時も農業黨と云ふものがあつたが、それは所謂地主階級の人に過ぎなかつたので、何でも其の收入となる所の米の價などを高くしようと云ふ主張であつた。所が、大戰後に起つた新しい農業黨は、そんな吝なことを許りは考へて居らないで、地主と小作と云ふやうな區別なしに、それを打つて一丸として農業の爲にと云ふのである。必ずしも利害をのみ問ふのではないが、農業と云ふものは人類生活の基であることを信じて居る決して農業黨を立てゝ商業や工業や其の他を排斥しようなどゝは考へて居らないが、人類生活の土臺である農業が、動もすると從來都會の產業に壓迫されて居つた、それではいかないと云ふので起つて來たのである。

斯う云ふ新しい意味の農業黨は方々の國に起つたが、殊に其の現象の最も著しいのはバルカン諸國である。該地方に於ける戰後の農業界の變遷は、是非とも深く注意して研究をして頂きたいと思ふ。今までは半野蠻國であると云ふやうに他國人から看做され、又實際バルカン諸國の人々それ自身も文化に後れて居た、それでフランスだのイギリスだのと云ふやうな西ユーロッパの例を追ふて行けば宜しい、而して幾年間かの進歩によつて、矢張りイギリスやフランスのやうになるべき筈だと考へて居つた所が、今度の大戰爭は現代の文明、即ち西ユーロープを中心とした文明が完全無缺でなかつたから起つた。戰前から現文明の行詰りは色々に說かれて居て、ブルックス・アダムスの「社會改革論（セオリー、オブ、ソシヤル、レボリユシヤン）」など其の一例に過ぎぬが、「此の文明は一九三〇年に至つて滅亡する」と極論した。此の大戰の勃發は、正しく有りの儘に此等の說の正しいことを證據立てたのである。バルカン諸國はドイツ民族とスラブ民族との間に介在し、今まで羨望して居たイギリスやフランスも手本としては完全でないと悟り、バルカンは

バルカンの文明を築き上げなければならぬ、それで西ユーロープ文明の缺點を補ふべきものであると考へ出した。此の仕事をするのが我等の使命であると、大きな自覺と云ふか自負と云ふか、さう云ふものを抱くやうになつて、バルカン諸國それ自身の著しい發展を遂げて、現にブルガリヤなどでも內閣に百姓出の大臣が多數を占めると云ふやうなことになつた。

それで、此の大戰後に起つた大運動として、一方に謂はゆるプロレタリアの赤化運動と云ふのが唱へられたが、それと相並んで他方には百姓から起つた所の、綠化運動とも呼んでよいものがあると思ふ。由來戰爭は大抵の者が損をするので、一般の產業界に於ては、商業も大打擊を受け工業も大打擊を受けた。然るに農業は割合に打擊を受けることが少いので—是は尙精しく述べぬと理解されぬと思ふが、イギリスの有名な學者でペンテーと云ふ人なども、「ギルド、トレード及びアグリカルチア」といふ小さな本を書いて、此の大戰爭中に概ね農業者は獨り富み且榮えたと述べて居る。——それ等のことを色々考へて見ると、綠化運動と云ふことに一つの重大な意味があるやうに思はれる。

此の大戰爭後に起つた所のものは、資本主義を倒して仕舞へ、上流階級を倒して仕舞へと云つてドイツがあの通り、殊にロシヤがあの通りの大革命を起した。ソビエートのやり方は、初めは實に偉いものを造る計畫であつた。世界の人は皆目を聳つて見た、あれが出來るならば偉いものだと思つた。所が段々やつて見ると、理想通りにはどうしてもそれが出來ないと云ふことになつた。それで世界の到る處に反動運動が起つて來た。反動運動には昔ながらの保守的なのがある、さう云ふやうな反動運動は論ずるに足らないけれども、他にあの赤化運動に對してソビエートのやり方には色々反對すべき理由がある、それは餘程重んずべきものであらう。ソビエート・ロシヤに於ても、其の主張の少からぬ部分、殊にレーニンの考でロシヤ全體の土地を共有にし國

有にしようと云ふことが先づ第一に實行が出來なんだ。それが行かない、農業地をば分かつた今日では、新經濟主義など、呼んで、矢張り元に復へして今日の平和が保たれて居る。此の反動運動の一とも見らるべき綠化農民運動と云ふのが起つて來た。此の新しく起つた農業黨は、今まで發達して來た資本主義には反對する。即ち地主中心の農業黨には反對するが、社會主義の極端なるものにも反對する。謂はゞ其の點に於て中間の途を通らんとするので、それが多くの國に於て多數を占める所の農民に依つて主張されるのである。

新しい經濟學　また、經濟は我々の生活上に最も深く直接に關係するものであるが其の經濟學の主張が變じたので、一變したと言つては少し過ぎようが、正に一變しようとしつゝある。今までの經濟學はアダム・スミス以來發達して來た謂はゆる資本主義の經濟學である。資本主義の經濟學では價値を中心にする、價値は貨幣で量るので貨幣中心主義の經濟である。それで今日まで發達して來た、其の結果はどうであるかと云ふと、大變廉くして良い物を澤山生産するやうになつた。其の生産と云ふ方面に於ては、殆ど驚くほどの發達を遂げたが、それで一般に人民が必ずしも平安に暮すことが出來ぬ。澤山に生産されると品物が廉くなつて結構と思つてゐると、廉過ぎると云つて資本家は聯合して生産を手控へ減少する。先達中も問題になつて居たが、紡績にしても操業短縮と云ふやうなことをやる。生産が澤山出來て廉い良い物が着られゝば結構なことで、國家人類の爲に喜ぶべきであるが、資本家は却つて生産を少くして品物の直段を上げようとする。十分に工場で仕事が出來るのを、それを抑へて出來るだけの生産を擧げまいとする。それを今まで現代の社會では公に認めて居るが、考へれば斯う云ふのは不都合を極めてゐるので、斯う云ふ法は無い筈である。若し之を農業界にあてはめたらどうか、例へば今年は米が澤山出來る。多過ぎて廉くなると困るからと云つて、百姓が一致して二割か三割づゝ米を燒棄てたらどうか。社會はそれを決して許さない。農家の生産に於ては許さないやうなことを、工業家の生産に於ては

認めて許して居る。さう云ふやうな方面を見ても、今日まで發達した經濟學は行詰つて居ると言ふのである。抑も生産は何の爲かと云ふ根本を忘れて居つたので、生産は即ち其の産品を使用して、それで生活を樂んで行かう、幸福な暮しを遂げようと云ふ爲に他ならぬのである。所が幸福な生活と云ふ大目的を忘れて仕舞つて、其の手段に過ぎない生産と云ふことを、恰も目的であるかの如くにやつて來た。此の間違つた所を直さなければならぬと云ふのが、新しく起らんとしつゝある經濟學である。今までは生産の爲の生産であつた、是からは生活の安寧幸福と云ふことを目標とし、その爲に生産するのだといふことを忘れてはならぬ。

それから、生産に限らぬことだが、經濟上で價値を勘定する場合には貨幣を以てした、貨幣以外には度量を持たなかつた。何でも金目の高くなるものが良いものだ、一圓より五圓が良いと云ふことばかり考へて、何でも金、金と云ふことになつて來た。所が金ばかりで人間の生活は出來ない、と云ふのは昔から富者必ずしも決して幸福でなかつたので、其のことは常識では能く分かつて居つたが、經濟學からも今日はそれが明確に分つて來た。詰り生産と云ふことで何でも廉く良いものを造れば宜いと云ふだけなら、金のみを標準にして宜いであらうが、財物を消費することに依つて幸福な生活が得られると云ふ點を考へると、貨幣だけぢや勘定が出來ない。値の高い着物が決して必ずしも着工合が良いわけでなく、高い食物ばかり食つて居れば愉快といふ譯にも行かないと云ふことが分かつて來た。加之、貨幣の値段そのものが、一面には段々下がりつゝある今後に於ては、金ばかり澤山溜めた所で役に立たないと云ふ思想が段々起つて來た。貨幣を千兩箱に詰めて何十、何百と積んで番をして居たのは昔のことで、資本として遊ばせては置かぬといふか、今までは金が無ければどうすることも出來なかつたものを、今後は金が無くとも十分それを利用することが出來る世の中になるだらう。現に例へば文化的設備と云つて、都會でも農村でも公園を作る。庭園と云ふものは昔は金の有る人ばかりが自ら造つて居たが、今日は金が無くても皆が公園

に行つて立派な園林を娯しむことが出來る。或は昔は金持のみが獨占して居た藝術品も、今は美術館博物館で樂しむことが出來る。斯うして昔に比べて金の値打が偉くないと云ふやうな現象が起つて來た、それは文明の結果である。また、思想上に於ても金を持つて居れば、謂はゆる特權階級で威張ることが出來たが、今後は段々出來なくなりつゝある。例へば、大きな地面を持つて居て「是は俺の地面だ、一歩も侵入することは許さない」と大きな顔をして、近所の住むにも土地なき人々が、どんな思をしても構はないで居られた。ところが今後はさうはいかないので、現に東京でも大きな地面を持つて居つた人は、段々分割するやうになつた。

自分ばかり要らぬ地積を廣く持つては居られない時代になつて來た。一人が何千坪何萬坪と云ふやうな大きな地面を獨占するのは、世の中に對して濟まなくなつて來た。さう云ふやうな次第で、金と云ふものが決して中心でないと云ふことが、段々人々の思想の上に分明になつて來たのである。

田舍の妙味　金が事實上生活の標準でないと云ふことになつて來ると、今までの經濟學でウツカリ思つてゐたのとは餘程考が變つて來る。從前は農業を商工業と比べて何時でも割の惡いものだ利廻りの少いものだと思ひ、農村に愚圖々々して居る者は碌な者でない、商業なり工業なりに行けばうんと儲かる、さう云ふ風に銘々が感じたから農村の衰頽と云ふことが起つた。自分は是程の器量があるのに、田舍に居つて鍬などを握つて居れない、都會に行つて大に活動すれば金持になつて樂が出來る、斯う云ふことを考へた。それは、成程貨幣のみを標準にして量るならば、農業は何時でも利廻りの惡いものである。是は恐らく將來に於ても農業は割の惡いものであらうと思ふ。今日まで能く技師などが指導奬勵するやうな場合に、何々をやると是だけ金が儲かると云ふことを說いた。あれは、動もすると却つて農村をして衰頽せしむる一つの原因になるのであらう。例へば鷄を飼ふことを奬勵するにしても、此の鷄は卵を幾つ產む、一つの卵を幾らに賣れば幾ら〳〵になる、是程金が儲かるではないかと斯う云ふ說き

方をやつて來たが、それは、今までの資本主義に捉はれた貨幣中心の經濟學から出た考で、金だけが貴いものと云ふ標準であつた。所がさう云ふやり方は、農民が無智である間はさう云ふものかと思ふて鷄を飼つたが、段々世の中が分かつてくると、鷄を飼ふよりは卵の仲買になる方がよい、他の百姓から買ひ集めれば、格別骨折らないで割の良い口錢が取れる。年中面倒な鷄の世話をするよりも餘程樂だといふので、少し儲かれば鷄を飼ふことを止めて卵屋商人になる、斯う云ふことに爲らざるを得ぬので敎育すれば敎育する程さうなる。然らざれば、正直に技師の說に從つてやつて見るが馴れぬ仕事を始めて取扱ふので、生きものには病氣もあるといふ次第、さう話のやうに甘く儲かるものではないから、「何だ先生は口だけは立派だがダメだ、さうだらうホントに儲かるなら技師など仕て居らないで、自分で養鷄をやる筈だ」などゝ、全く信用を失ふのが落だ。さういふ風のやり方では折角の敎育開發が、却つて農村を衰頽せしめることになるであらうと心配されるのである。

それよりも、人生の價値と云ふものは決して貨幣で量られない部分がある、斯う云ふことを頭に於てそれから出發して來ると良い。例へば鷄を養ふことを勸めるにしても、「お前の家には是だけの餘地がある、仕事の閑も是だけあるぢやないか、鷄を養つて見給へ、生き物だ、可愛いものだよ、鳴聲も時計の代用になる、何も儲からなくても別に損はない、卵を產んだら皆で食ふのさ、茶漬に香の物ばかりが能であるまい、稀には卵も食ふがよいよ、夫れから畑に放つて置くと糞が肥料にもなる、害虫驅除や雜草には此の上のものはあるまい」と說くのだ。さうすると、成程其の位のことなら一つ養つて見ようかと云ふことになる。生き物を養ふ程面白いことはない、誰でも少し手なづけて行くと必ず面白くなる。今までは愚圖々々朝寢をして居つたが朝早く起きるやうになる。そこで初めは鷄を二羽か三羽養つて居つたが、段々上手になつて十羽になり、二十羽になり三十羽を巧に飼ふやうに進んで來る。さうすると、始は一つ二つの卵を小兒が奪ひ合つて居たのが、遂には產んだだけの卵を自分の家で食ひ切れ

なくなる。隣近所に贈り物にしても宜しいが、それでも有り餘つて來るとさう〳〵理由の無い所に遣ることも出來ぬので、今度は賣つても宜いと云ふことになる。飼ふのが樂みなのである、賣るのが目的ぢやないから、さう別に儲けなくともよいといふので廉くして賣る。盛に買手が附くと云ふ譯で段々賣出す。さうすると、思はず幾ら幾らの賣上高になつた、初めから豫期しなかつたけれども儲かつたといふので、是は農家經濟の大なる助けになる。斯う云ふ意味に鷄を養つて非常に利益があると云ふことは、目的でなく結果として起つて來るので、さう云ふ風に考へたいと思ふ。鷄を自分の娯みに養ふ、生活を裕かならしむるために養ふ、さうしてゐると何時の間にかさう云ふ利益が自ら起つて來る、斯う云ふ風に奬勵したら如何なものであらうか。又、經濟と云ふものゝ本質を考へて、生活を幸福にし安寧に暮すことが我々の主旨であると悟れば、何も儲けなくても宜い、儲けなくても家族の中に鷄を何羽加へて、それが爲に家族が樂しく平和になれば結構である。さう云ふ趣旨を有らゆる經濟の問題に持つて來て當嵌めることが宜いと思ふが、經濟と云ふものは生産が目的でない、其の生産したものを消費して、それに依つて樂しい平和の生活をやつて行くと云ふことであるといふ云ふ風に考へると、農業必ずしも不利益のものでないことが分る。

今までは、何でも何反歩に種子や肥料や、どれだけ資本を入れてどれだけ勞働し、而して是だけの生産が上つたと云ふやうなことばかり勘定して來た。さういふ勘定では農業は引合はないのであるが、田舍に居つて、あの自然の環境の空氣の清い所に、暢氣に生活して民謠を歌ひながら働くのだ。それを此の都會の電車の行き交ふ所で、一寸も氣を許せないでく、よ〳〵して暮さなければならぬと云ふのと比べて、貨幣以外に標準を置いて考へると、農村の生活は決して　さうけ、ちなものでないと云ふことが分る。例へば暢氣さと云ふやうなことを勘定に入れる、田舍の生活と都會の生活とは何方が暢氣だといふことなどを考へる。現に東京には是だけの多數の人間が居る、皆が平和な安樂な生活をやつて居るかと云ふと、どうもさうらしくないので、多くは田

舍を憬れて居る。其の證據には祭日や日曜の朝に上野の停車場なり、新宿といふやうな玄關口に行つて見ると、何時も大勢の者が集つて居る。何處へ行くのかと云ふと、汽車に乘つて田舍に行く、何の爲に行くかと云ふと、唯二時間なり三時間なり田舍を迂路つき廻つて、それから又夕方になると汽車に乘つて歸つて來る。今日は愉快であつたと言つて喜んで居るが、全く田舍の空氣が吸ひたいからだ。忙しい暮しをして居るのであるが、一週間に一度なり、一月に一度は田舍に行つて其の景色に接し其の空氣を吸はねば、生きて居ながらやり切れないからである。農村の人はそれゞ居ながらにて得て居るけれども、馴れて忘れて居ると云ふよりも、それを勘定に入れることを敎へられなかつたのである。今までの經濟學では空氣の淸さは何十圓だといふことを量らぬ、田舍に於ける生活の暢氣さは、何百圓だと云ふことは勘定に出て來ない、それを皆取除いた計算ばかりやつて居つた。此の暢氣さであるとか空氣の淸さであるとか、人情の純朴や景色の美しさを勘定したなら、田舍の利廻りは必ずしも都會の利廻よりも少いと云ふことはない。今までの經濟學は片手落であつたが、今後に起るべき新しい經濟學に於ては、必ずそれを敎へて呉れると思ふ。さうすれば、農村と云ふものはさう心配しなくても宜い狀態になる。かう云ふやうなことが有らゆる人の頭の中に、はつきりして來ればよいので、此の思想なり實情なりが社會に段々頭を擡げて來て、謂はゆる綠化運動と云ふことが非常な勢を以て出て來た、斯う認めて宜からうかと思ふ。

一體、都會に居る人々は＝昔はさうでもなかつたが＝「人間が抑も何處に住んで、何によつて生きて居るのだ」と云ふことを忘れて居る。無理もないので都會の狀態を見ると、歩むのもアスファルトやコンクリートの道ばかりである。元來人間は地球表面上の一角に生活をして居る、地球に賴つて總ての生活資料を得て居る、地球を一歩も外に出る事の出來ないのが人間の運命である。それに此の大地を離れて、コンクリ

ートやアスファルトばかり踏んで居るから、心胸の奥底には饑渇して悶えながら、つい自然を忘れるに至つて居るのである。昔から都會の商工業者と云ふものは永續きはしないといはれて居る。非常に榮えて居つた家が　三代目には貸家札を斜に貼らねばならぬ。それ位に都會の繁榮は續かないと云はれたが、三代でもまだ良かつたので、現代の都會人の變遷異動は更に非常に激しい。現に今日の大商業者、大工業者は一代で成り上つた人が多く、自分が田舍に生れて都會に來たから、石を踏んだりアスファルトを踏んで居つても、時々田舍の味を思ひ出さざるを得ない。平常は忘れて居て小兒の教育などにも氣付かずに居るが、心の奥深い所にこれが潜んで居る。人間はどうもこの自然に頼らなければならぬ、土地を踏んで居らなければならぬ、其の本來に戻らねばならぬのは當然のことである。

都會も近來は都市計畫だとか區劃整理だとか、偉いことが段々起りつゝあるが、之らの事實の大部分は都會をして田舍らしくしようと努めて居るのである。公園を造る木を植える。芝生をこしらへる、都會の中に田舍らしい氣分を持たしめようと云ふのである。まだ文明の中途であつた時分には、何でも機械でこしらへたキチンとしたものを立派と思つた、普通の土の道よりもアスファルトやコンクリートの方が宜いと考へて居つたが、段々進んで來るとさうぢやない、人間はやはり自然に戻らねばならぬと悟つて來た。本當を言へば石の道は足が重くて草臥れて仕方がない、到底長く歩くことは堪え切れないので、ロンドンやパリーに行つても、金をかけて立派な道路を造つて居るが、大抵は成るべく歩かないで電車なり自動車なりに乘る工夫ばかりする。而して郊外散歩などゝ態々自然の道の上を踏むために時間をつぶして居る。どうも人間の本性といふものは欺けぬものである。

住宅に就いても同樣で、堀建て小屋から起つて石造煉瓦造、鐵骨コンクリートといふ風に進んだが、四角なキチンとした震災前の銀座の建物が理想であつた時代もあつたが、今日の人々にあんな家を理想として這入りたがるものはないので、是非とも流

行の文化住宅でなければならぬと云ふ、どこかに不規則な田舍風のあるのを喜ぶのである。地震や火事に丈夫だから皆鐵筋コンクリートで造るやうになるだらうが、其の建物に特に天井などに大きな棟や梁を表すやうな工風を加へ、わざと横廣い田舍風の家を造つてバンガロー式など、得意になつて居る。布地なども其の通りで、工場の機械製を尊しとした時もあつたが、今では金の有る榮耀榮華の人ばかりであるまい、相當に自由の利く人は機械織の服地よりも、ゴワ〳〵して織目も揃はぬ手織を喜ぶやうになつた。手織など、云つて粗末なやうに考へて居たのが、今日ではホームスパンなど云つて手織を却つて珍重し、從つて値段が出て居る。矢張り昔に復つて來たといふよりも、段々田舍の本來に歸るのである。食物に就いても、近來栽培の技術が大に進んで、或程度までは自由自在に作物を作る。筍は特別例外な孝行者でなければ冬は堀れなかつたが、今日では左程孝行しない人でも寒中に雪の間に筍をこしらへるやうになつた。生の筍がなければ罐詰がある、アメリカやユーロープに行つても食べられるやうになつた。けれども、促成物や罐詰ばかりを感心しないで、矢張り季節物に限るとは決して通がるものばかりの趣味ではあるまい。菜類でも促成栽培で早く立派なものが出來るが、芹などでも何うも風味が足りない。矢張り野生の方がよい、香が高くて少し強い所に味があるといふ具合である。斯ういふ風に、或程度の文明を通り越して更に進むと云つてもよからうが、是は取りも直さず人類生活の本來に戻らねばならぬといふ、その一面の曙光を現して居るので、喜ぶべき現象であると思ふ。

農村の成人教育

斯の如く、モット種々の他の點からも說かれるが、今日まで發達して來たユーロープを中心とした文明には不滿足である、更に一般と進まねばならぬことを痛切に感じて來た。其の更に高い文明を築き上げるには何うしたら宜からうか。有らゆる方面で之は教育に依るより外にないので、成人教育といふことの必要なども此の意味で重大になつた。成人教育と云つても現在の成人は間も無く死んで仕舞ふ、どうせ間に合は

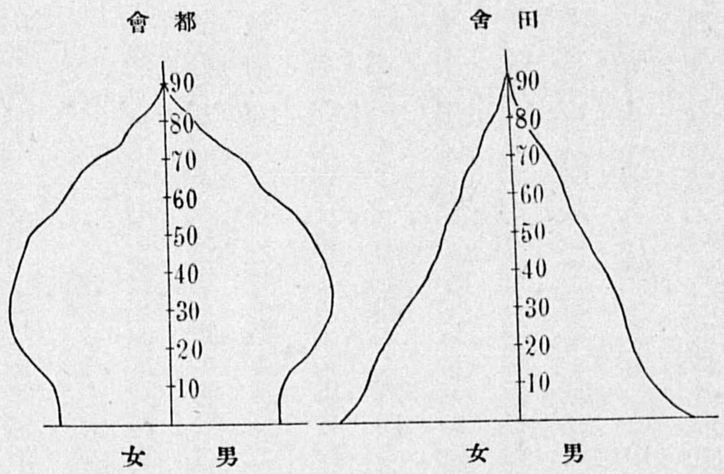
ぬから構はぬで宜からうと云ふ人もある。或時代にはそれで宜かつたであらうが、今日の變遷の甚だしい時代では、眼前の急を放置する譯に行かぬ。昔は五十年やそこらは大した變化がなく濟んだが、今は五十年どころか五年も經つと一變する。斯う云ふやうな狀態になつて來たから青年時代少年時代の教育だけではやり切れない、矢張り現代の立役者である成人そのものを教育して行かなければならぬ。斯う云ふ道理もあるので、都會でも農村でも同樣であるが、殊に農村では色々の點で都會よりも困難であるから、動もすると放任され勝ちで特に注意を要する。都會に於ては人數が多いから、一所に集めて斯教育を施し易いが、田舍に於てはそれが容易でなく、且設備にも教師にも不便が多いのである。少數は止むを得ぬ不便なのは仕方がないと、放置しては今日の要求である機會均等と云ふ事にならぬ。デモクラシーは多數の輿論で事を決するのであるが、その爲に少數者の機會を抑へ付ける事は斷じて許す可きでない。政治の當局者などは、寧ろ強い者よりか弱い者を保護すべきだと云ふやうに、有らゆる方面に考へられて來た世の中であるから、成人教育に於ても農村に一層力を注がなければならぬと云ふのである。

それで最近のユーロープ諸國に於ても、農村の成人教育は未だ甚だ振はぬものであるが、更に大に盡さねばならぬと何處でも云はれて居るのである。然れども、都會に於ける成人教育と田舍に於けるものとを、全々區別して見るのは間違であらうと思ふ。同じく大人の教育である、苟も教育と云ふ以上は時代に適應せしめねばならぬ。各人に其の自我を十分に發揮せしめ、其の個性を完成せしむることが教育である。其の外に教育といふことはない、都會人であつても田舍人であつても、人間たるに變りはなく社會生活をなしつゝある人に差別はないから、都鄙を對立せしめても主旨眼目に異なるべき筈はない。全く同じものではあるが、都會と田舍とは其の環境が各自に違ふから、其の施設や手段には同じからぬものがある。

抑も我々人類は地球上に生れて、自然に依つて育てられて居るが、此の大地と人と

の關係が比較的に――程度の差があると云ふだけで、都會に於ては土地の狹い所に人が澤山住んで居る、田舍では土地の廣い所に人が少く住んで居る、それ以外に都會と田舍に於ける本來の區別は何もない。動もすると早合點して「都會人は商工業に從事して居るから商工業の智識技能を授け、農村に於ては農業の教育を施すべし」と考へるやうであるが、それだけで成人教育が出來上つたと考へたら、飛んでもない間違ひであると思ふ。そんなことなら今更成人教育などゝ喧しく云ふ必要はない。昔から農事講習と云ふやうなものが、農村には過ぎる程あつて、此の上やる必要は殆ど考へられないのである。夏期講習會を夏期大學と名を換へて得意になつてゐるやうな風に、此の成人教育を取扱つてはならぬ。新しい技術方法を教へてやるといふだけなら、何も新しい別な成人教育などゝ呼ぶことは要らぬのである。

尙都鄙を分てば土地と人との相對關係から色々のことが云へる、例へば人口に就て考へて見ると、都會の人口は五角形で、田舍のそれは三角形である。圖に表はして縱



に年齡を横軸の左右に男女を別けると、年齡の少いものが男女共に多く、漸次齡を加ふるに從ひその數が減少して九十九歳百歳といふ高年者に至つて無くなる。斯ういふ風に、大體三角形をなすのが田舍の人口の成立である。下が大きく上に行く程小さくなるから座りが良い、一寸突いた位では容易に顚ばぬといふ次第である。都會の人口は大分その趣が違ひ、生れたての赤子から十五歳位までは同樣だが、それから二十五歳三十歳頃までの間は盛んに田舍から移住して來る、即ち下が小さく中頃大きく末がまた小さいといふ大體に於て五角形をなすのである。だから甚だ危い立ち方で少

し景氣が悪くなると直に失業者が出る、流行病でも何でも厄介なことが多いのだらうと思ふ。

斯ういふ差別から見ても、絶對的には無論として、比較的都會に成人教育を受くべき人數が多く、此の人數の多いことは面倒なやうで實は便利な點がある。都會の成人教育は割合に爲し易い點もあつて、歐羅巴でも都會には私團體が澤山あつて隨分盛んである。田舍にはさう云ふものが甚だ少く、どうしても國家が特別の力を注がなければならぬと思はれる。尤も秩序のない都會では何事も徹底することが難しく、其の意味では田舍と較べものにならぬ困難はあらうが、普通の手段方法に就ては田舍が難しい。是だけで成人教育の趣旨に都鄙の差別はないが、其の間に何か大に異なるやうに考へるのは間違つて居ると私は考へる。從つて、こゝで私が農村に於ける成人教育といふことに就き、特に管々しく申述べる必要はない譯であるが、それでは最初から論述しなければよいといふ事になるから、田舍の成人教育は一層に困難だといふことを思ひ、其の覺悟で之に從事すべきことを注意したいのである。

詰り田舍は人が少く集りにくいといふのである、第一に集める所が困難である。都會ならば或一つの問題を掲げて、是から集れと云ふと隨分相當に集つて來る、所が田舍はなか〳〵困難である、交通が不便であるから集りにくい。その上に、適當な場所がないのである。今日では青年團の集合場とか學校があらうが、さう云ふやうなものも都會に比べれば餘程劣つてゐる。東京邊りならば先年の大震災でつぶれた今でも、三百人や五百人集める所は幾らもあるが、農村にはなか〳〵それが得にくい。第二に成人教育をやるには、適當な教師がいる。知識の有る者ばかりが適當した者では決して無い、斯の教育には特殊の技能を有つた先生が必要である、其の先生が田舍に於ては得難い。第三には設備が出來にくい。書物が必要である、標本が必要である、又幻燈機械が必要である、活動寫眞が必要である。さう云ふものが都會ならば譯なく得られるが、田舍では難かしいのである。大凡これ等の點を擧げても宜からうかと思ふが、農

村の成人教育をやる場合には、必ずこの點まで考へを及ぼさなければ出來ないことになる。

申すまでもなく、困難ばかりではなく便利な點もあるにはある。其の一つは都會に於ては色々の面白いものが外に澤山ある、田舍にはそれがないから何處其處で斯ういふ風の集會を催すと言へば、外に行く所もないから行つて見ようと云ふことになる。第二には都會の人は複雜した生活をして居るから容易に他の說を喜んで聞かないが、田舍の人は自然に接觸して、始終動物や植物の生活に觸れて、少しも僞らぬ隱さない環境にあるから、一面に頑固といふこともあるが、愚直だから講義でも素直に受け入れる。凡そ此二つの點を長所と認めて然るべきであらう、實際に田舍に於げる成人教育をやる場合には、是等の便不便を念頭に置いてやれば宜いだらうと思はれる。

成人教育の方法

成人教育に就き考へねばならぬ點は、上の者から下の者に教へてやると云ふ態度ではいけないといふ事だと思ふ。今日はデモクラシイの世の中であるから此の教育も亦デモクラシイの組織にしなければならぬ。それであるから成人教育を始めようとすれば、先づ村なら村、部落なら部落に於て團體を組織することが第一歩だと思ふ。重だつた上の人が、皆の爲に講座を設けてやるといふのでなく、裏から說いて銘々に＝農村住居の成人達に＝自ら一つ會を組織して研究しようぢやないか、修養會を起さうではないかと云ふやうな工合に、自發の團體をつくらしめ、その會長や書記＝會長なども要るまい、幹事か委員で十分であらうが＝をも銘々の中から選出せしめる。斯ういふ風に表向き高壇から指揮するのでなく、裏から裡から說いて感得せしむるのが、教育者、指導者の役目ではあるまいか。さうして置いて場所の選定、その他を助ける—夫々に苦心が要ると思ふが、場所の良否なども大に影響を及ぼすものであらう。それら他の部落と聯絡を圖つて行く。さうして一つの組織を立てゝ郡の聯合、縣の聯合、遂に國全體の系統的な組織を造り上げるのでなければ、本當の成人教育は出來上がる

まい。まだ無いのは殘念ながら仕方がないとして、近い將來には我が日本に於ても成人教育の聯合協會と云ふやうなものをつくり上げる、さうでなければ本當の仕事は完うせられまいと私は考へる。それから、農村に於ける成人教育は割合に金が要る、安く上げようと思つては到底碌な効果が擧がらない。其の金を何所から出すかと云へば、人口の少い現に甚だ疲弊してをる農村から取ることは出來ぬから、宜しく國家に請求すべきものであらうと思ふ。是だけの覺悟と是だけの注意を以て當れば、田舍に於ける成人教育も大抵出來ぬことはないと思ふ。

そこで、成人教育の實際の遣方であるが、是といふ經驗のない私などが彼是いふ資格はないので、只氣付いた所だけを御參考に述べたいのは、第一最初にも申した通り子供の教育ぢやないといふことである。子供なら學校に行つて習ふので、先生の言ふことは金科玉條として、時には間違つたことでも眞直に其の通りに聽く。青年になると小學兒童ほどではないが、中學校でも女學校でも生徒としては稍似寄つたものである。大學では下手な嘘を言つたら承知せぬ、大學の學生は可なり物知りであるから唯聞かせるだけではならぬ、教授と學生と一緒に研究する、共に眞理を見出すといふ風にやるのである。所が成人教育では少年時代や青年時代に餘り十分な教育を受けなかつたものを相手とする、先生と一緒に眞理を闡明すると云ふやうなことは出來ない。けれども、長く世の中に暮して來て經驗を持つて居るから、雜多な知識はあり、事物に對して相當の見識を持つて居る、間違つて居るかも知れないが兎に角意見を持つて居る。であるから、小學校に於けるが如く先生の言ふことを其の儘受入れない、又大學に於けるやうに先生と一緒にやつて行くことも出來ない。曲がりなりにも或ものを持つて居るから、さういふ知識などを授くる教育を施すには及ばないが、多くの場合に不十分不正確であるから、それを直し不足を補つてやらなければならぬ。是が成人教育の難しい所で、白紙なら何でも立派に書きなぐることも出來るが、既に獨斷を有つて居り偏見を懷くものを、正しく導いて變說させるのだから困難は一通でない。チ

ヤンとした一の趣味を持つて居り、それが立派なものなら何も導く必要はないが、其の趣味が間違つてゐるとは云へないでも、多くは野卑な低級なものを常とする、それを高尚な純清なものに導いて行かなければならぬ、こゝに成人教育の一つの使命があると思ふ。

樂しむことは、人間に必要で何か相當の道樂趣味がなければならぬが、田舍で多くの成人のやつて居る樂みは、兎角に不純の分子が含まれて居る。博奕が打ちたいといふやうな趣味、酒が飲みたいといふのはよいが、醉つたら一つ喧嘩せなければ納らぬといふのは困る。是が出來なければ生甲斐がないといふやうな趣味に兎角不純なものがあり、隣近所の迷惑、自分の爲にも健康を害ひ產を失ふに至るといふのがある。賭博も鬪爭の本能から出た一の趣味である、無暗に禁止しようとする道學先生的の說法では恐らく効果は擧がるまい。さう云ふ鬪爭本能からの要求は矢張り鬪爭で滿足せしめる、飽く迄も純正な高尚なものに向ける外はないので、各種の競技で賭博を止めたといふ實例は聞いて居る。酒でも醉ひさへすれば何でもよいのでは情ない、ドブロクばかり飲んでゐると、偶に正宗を飲んでも味が分らない、甘過ぎていかぬなどといふやうでは氣の毒なものだ。此の趣味を高尚に純清なものにすることを深く考へねばならぬ、そして終には善を行ふことを是樂しむといふに至らしむるを目標とする。たゞ重ねて申すが、相當の年月間馴れ染んで來たものを棄て、更に新しい高いものに移り行かしめようとする其の方法は、餘程時宜に應じた工風を要し、甚だ困難であると云ふことを考へて置かなければならぬ。

趣味ばかりでなく、成人には總て自分と云ふものが強いから、講義などでも唯聽いて居るだけでは滿足しない、十分に滿足し納得せしむる爲には言はしめなければならぬ。知識慾は大にあるから變つた事を聽くのは喜ぶ。殊に斬つたとか盜んだとか云ふ新聞種や、他人の惡口や下らぬ噂は喜んで聽き、聞いたことは盛んに話し傳へるといふのが人の本性だ。巧に此の本性を利用して善い事を聽かせる、たゞ聞くばかりでは

呑込めぬから、銘々にも盛んに談論せしめるのである。西洋の實例を見ても、初めの一時間は先生が講義をする、其の講義にも工風が要るが、大體學校などに於けるものと格段に違ふ譯はない。講義が一通り濟んで仕舞ふと、それから本當の成人教育の特色が發揮せられる。即ち講師はポケットから煙草を出して火をつけながら、どうだと聞き出す。今まで緊張して居つた教室が、忽ち變つて倶樂部のやうな空氣に移る。さうして銘々が質問を發し議論を始めるのである。「先生が今説かれた此の事は他では知らぬが私の方では駄目です」斯う云ふことを言ひ出した時に、それはお前がまだ分らないからだ、モット勉強してから出直せと云ふやうな風では成人教育は出來ぬ。「さうかな、成程尤もだ、ツイそこは未だ私も氣がつかなんだ」と一應は認めて置いて、それから段々説いて行つて迷は解いてやる、間違は直してやるのでなければいかぬ。それで一般に一時間講義をしたら、一時間は質問應答に當てる事に定つて居る。英米では夙にディスカッション・メソド（討議法）などゝ呼ばれたが、ドイツでは近頃アルバイツゲマインシャフト（協同研究）と云つて近く斯教育の要點を認めて居る。

また、教授に一般的の教科書を用ゐることも時には宜からうが、謂はゆる講義式に偏したり、演説口調で述べ立てるのも如何かと思ふ。力のある講演でなければならぬが、談話式と云へばよからうか、熱があつて面白く説くことが必要である。さうで無ければ、迚も寄付くものでない。議會での演述は速記者に筆記させて、六千萬の國民に讀ませれば良いさうだが、其の他の場合では其所に集つて居る人に聽かせるのであるから、如何に名論卓説でも其所に聽いて居る人が眠つて了うやうでは何にもならない。時には笑話を入れ冗談も加へるのでなければなるまい。時間を損するとか系統が亂れるとかいふ心配もあらうが、其處の人々に聞かせる事が大事なことである。それにはどうしても談話式に通俗的に、而も一の高尚な眞理を含むといふので、深いことを平易に熱を入れて説くといふのでなければならぬ。數百人の多數の集りならば、時折に笑聲が聞えるが、農村の成人教育では二十人か三十人それ以上の多數は餘り期待

されない、二十人やそこいらの少數に對して講義をして、面白く笑聲も聞えるやうにするには工風が要る。たゞ講談師のやうに面白がらせるのが目的ならさうでもあるまいが、或一物を持ちながら說くのが難しい。

昨日の新聞に、東京女子高等師範の倉橋教授が成人教育に就いて發表されて居るが、まことに斯教育關係者にとつて參考となる文字である。倉橋君とは長い間の親しい知り合ひであるが、成人教育と云ふことに就て別に話合つたことは未だない。私は之を讀んで流石に我が友だと思ひ、大に我が意を得たのを喜んでゐる、私の言はんと欲する以上に實に巧い文章で面白く書いてある。ユーロープ滯在中に方々で成人教育の實際を視察された其の所感が書いてあり、簡單ながら要頭がハッキリ表はされてゐる。初から終ひまで贊成であるといふよりも、あれを十分に咀嚼するならば、最早私から下手なことを述べる必要はないと思ひますから抄錄しよう。

成人教育

倉橋惣三

「成人教育に就て思ひ出すのはロンドンのピープルス・カレッヂの一夜である。古い汚ない建物の奥の方の、狹い階段を昇つた二階の教室に、極く簡素な腰掛がぞんざいに列べられてある。會社の事務員、工場の職工長といつた年輩風采の人達が、十四五人靜かに書物を開いて居る。質素な縞背廣の教授が、大きい黑板の前の椅子に腰をおろして熱心に講義してゐる。……

處が凡そ一時間程たつて、講義が一くぎりついたと思つたら、教授は急に體をぐるりと横向にして、前の椅子を引きよせ、それに脚をのせた。そして、ポケットからパイプを出してマッチをすつた。聽講者の中にもパイプをつけたものもあつた。今まで肅然たる教室が、一轉してクラブの一室の樣に變つたのである。そして其の煙草の煙と、くつろぎとの中で討論が始められた。何といふ氣持のいゝ討論振りであらう。教授者も聽講者も同じやうにミスターで呼びかけて、語調は靜に、然し意見は何處迄も述べるといつた工合。

殊に實際問題に就ては、教授者の方から「さうですかねえ、有り難う」といつた風の口のきゝ方を度々せられた。……私は其の時所謂成人教育の極意を見せられて居る樣な氣がした。學校の生徒でない實社會の人を相手とする此の教育の第一要點は、相手を一人前の社會人として尊

敬することにある。術語は知らない、システムは立つて居ない。然し學問がないからとて無知といふ譯ではない。世間を經驗し人間を熟知して居る點において、單に本を讀んだ先生よりも、却つてものが分つてゐるかも知れない。……

成人教育についてもう一つ思ふことは學科の選擇である。……現に社會に働いて居る人々の爲にする以上、直ぐ役に立つ應用知識や社會知識といふやうなものも、極く入用に相違ない。併し成人教育は、現實の處世實利の教育に限つたことだと考へたら間違である。

……成人教育は社會生活者として必要な實際知識を補充するばかりでなく、時に學者や有閑階級だけの所有になり易い文化の產物を、現實生活の多忙者にも普く頒ち得る機會をつくることである。殊に其の系統的理解によつて、人生實利の外、深遠、壯美、精確、普遍といつた樣の崇高な一面のあるを感ぜしめ、同胞のすべてを精神文化の所有者たらしめるのが、成人教育の純教育的意義である。」（大正一四、六、一一　東京朝日）

次に科目であるが、今までの遺り來りでは、縣廳や郡役所の吏員か學校の先生が定めて居た。是は止むを得ないことゝ思ふが、今後は此の點をも大に考へて、聽講者の眞の要求を充さねばならぬと思ふ。今までのは萬事上から指圖をして治める、動もすると教育までが方便にされなかつたでもない。民力涵養だ勤儉節約だといつて、勝手な時に勝手な課目に就て講義した。それ等は未だよい方で、時には隨分妙なこともあつたらしいが、今まではそれで宜かつたであらうが是からは難かしい。さう云ふ課目は教育を受ける所の講習生、成人それ自身に擇ばさせるやうに將來は努めて行かなければならぬ。現在は難かしいか知らぬが、課目その他も多く教育を受ける者自身が選擇すべきだと云ふ事を方針として進むべきであらうと思ふ。併し實を云ふと課目は何でも宜しいので、此の世の中にあるものは復雜であるから其の復雜な中には大抵な問題が含まれ、其の問題は田舍の百姓たりとも皆關係するのであるから、何でもござれで是は無用といふ事はない筈だと思ふ。百姓は田を作つて居れば宜しい、詩などを作つてはいけないと云ふ人があるが、百姓にも詩の情調を味ふと云ふことは非常に望ましいことである。近松門左衛門は如何なる生涯の人で、どんな作がある、我が文學史上

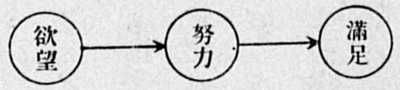
どういふ位置を占めてゐる位は、農村に於ける人々も相當に心得て居て然るべき事柄で、義理と人情にからまる心中物など深く味ふべき教訓もないではない。さう云ふ風な問題に決して制限を置くべきでない、制限を置いたならば、成人教育の目的を達することが出來まいとも考へます。兎角、今までは專門に偏してコンモンを忘れた弊があつた。農村に於ては農業をやればよいので、他の世間の事は成るべく知らさぬがよいなど云ふが、これは飛んでもない間違である。寧ろ農村に於ては農業のことは大概な先生よりか生徒自身の方が能く知つてゐる、百姓さんの方が偉いのであるから、さう云ふ風に農事一點張りなどは、宜しく今後は廢すべきである。私など是でも一方から云へば農學者だと思ふてゐるが、併し農村に行つて栽培のことは決して說かない。是が學に忠なる所以、また謙遜なる所以と心得て居る。であるから決して農事に限らず、殊に經濟といふ根本の問題、社會思想に關するもの、藝術に就きて、又は文化發展の徑路、さう云ふものをやらなければならぬ。此の世に處して一番大事なことは、現代の時勢に適した生活をすることで、それを爲し得るやうに導いて教へて行くことが肝要である。それには畑つくり豚飼ばかりでは行けぬ。

結語

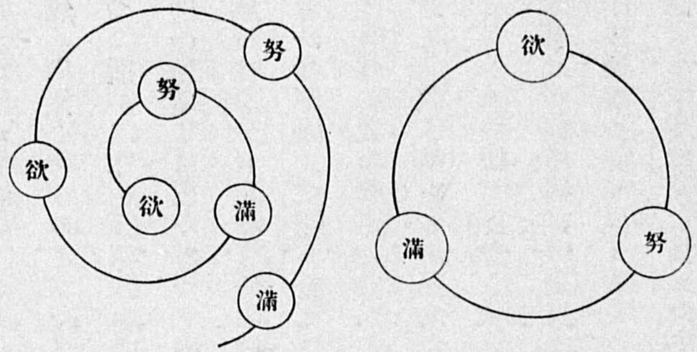
こゝに、根柢に置いて考へねばならぬ最も大切なことは、教育は自我を發揮する、個性を完成することが目的だといふことである。有らゆる學科目がそれに關係するので、各方面から天性の力を十分に發揚せしむるため、各種の科目を時と處とに應じてやるに過ぎぬ。抑も我々がお互に人間として此の世の中に生れて來たが、是は決して自ら擇り好んで出て來た譯でない、殊に土地を擇び、家族を擇んで來た譯でない。私共も若し自由が利くならば、モット學問の素性の良い家か、ウント財產の有る家に生れて來たかつた。是は運命と云ふもので自分は知らないで生れたから責任はない。責任がないから大に覺悟を要すると考へねばならぬと思ふ。之は何人も苟くも人間である以上は變りはない、均しく此の覺悟で生涯を踏み出さねばならぬ。たゞ境遇に依つ

て違ひが出て來る、幸に少年の時、青年の折に十分な教育を受け得た人はそれでよいが、氣の毒な境遇で十分な教育を受け得なかつた人を教育するのが成人教育であるから、其所を考へなければならぬ。而して自己を發揮し自我を完成すると言ふが、其の自我とか自己とか云ふのは何であるか、といふ事は實に難かしい問題である。難かしいが之を解いて置かねば、龍を畫いて眼を入れぬといふ次第、私の考では此の世に生れて來た時には、一人のやうだけれども實は一人でなく、生れた時には、もう社會が出來上つて居る。親が必ず二人有る、外にも兄弟があり親類がある、隣近所がある、さういふやうにちやんと出來上つた所に自分が生れて來た、それも自分で進んで仲間入したのでなく、外に行き場はないのだ。切つても切れない緣で結ばれて此の世に生きて行くので、個人とか自我とか言ふが、物理學的の一人といふ意味ではない、社會的に倫理的に言へば、決して孤立したものと考へられぬ。此の社會の一員としてのみ自我とか個人と云ふことが有り得る。

斯くて私共は此の世に生れて此の地球と云ふ環境の中にあり、自然から色々惠みを受けて育つて行くに外ならぬのである。生きて行くには經濟學者の謂はゆる慾望が元になる、慾望の內でも最も强い根本になるものは生存慾であると謂ふことが出來る。何とかして生きなければならぬと云ふ、その慾望を滿足させるためには即ち財が要る、其の財は努力により得られ、始めて滿足が得らるゝのである。此の欲望と努力と滿足との關係が、取りも直さず我等の生活である。之を人生の公式であると云つて可いと考へる。複雜な現代の事情に照らしては、此の式に色々なプラスが附いたり、マイナスが附いたりするが要するに此の三つを出でぬので、それを考へると、我等がお互に務むべきこと、時代に適應する生活と云ふものも、畢竟この「努力」といふことに歸着するのである。此の慾望は本能的にある、滿足は結果として起る、人間の爲し得ることは努力の外にないのである。



序ながら、茲で一言致したいのは目的と結果との別で、動もすれば此の目的と結果とを間違へるやうに思ふが、滿足は結果として得られるやうにするのがよいので、餘りに之を目的として追ふのは宜しくない。努力には種類と言ふか方法と言ふか、程度と言ふか大小と言ふか、色々あるに相違ないが、夫れ相應の結果として滿足が得らるゝのである。それで努力を敎へれば良いので、目的として餘り滿足を說くに及ばぬと思ふ。勿論、敎へると云つても此の種のことは、唯黑いぞ白いぞ丸いぞと敎へられるものでない。殊に成人敎育では納得させなればならぬので、成程と悟らしめるには言葉だけでは容易に出來ぬものである。言葉は固より非常に不十分なものである。本當のことを眞直に表せる言葉はない。少し進んだ深い高い事は文字や言葉では足りぬから禪宗では不立文字と云ひ敎外別傳などゝ甘いことをいふが、之は實際その通りであらう、心と心と相通じて悟り合ふのでなければ本當ではあるまいと思ふ。私なども此の意味で、或場合には上から下に、或場合には下から上に說く。其の二つだけ見れば



互に反對で矛盾して居るやうにも思はれる。折々論理不徹底だ頭が惡いなどゝ批判されるが、實は上から說いたものも下から言つたものも本當のことでなく、眞意はその中間の言外にあるのである。如何に攻擊されても私は仕方がないとして、言外の眞意を納得出來ず悟れない方も少々分らぬのではないかと云ひたいのである。兎も角も、四方八方から眞理でないことを說き盡せば、自ら殘つたものが本當のことだと悟れる筈で、何が目的で何が結果かは、斯うもして敎へ得られやうと思ふ。

斯の如く努力の眞意を了解することが、肝要だが慾望と努力と滿足の三者で經濟圓を畫くとフランスの學者バスチエーが云つたのは面白い。即ち「一の慾望が起つて

努力に依つて滿足すると、第二の慾望を起して更に繰返して行く」と言つたのである。然し尙能く考へると、一つの慾望は際限の有るもので、喉が渴いて水が飲みたいと言つた所が二杯か三杯飲めば滿足が出來る。二十杯も三十杯も飲めるものでないが、人間の慾望には色々あつて種類には限りがないから、同じ慾望同じ努力で繰返すといふ圓ではないらしい。一の欲望が滿足されて、更に起る第二の欲望は、最初のものとは質か量が違ふ、隨つてそれに對する努力も前者とは同じくない。潛越ながらバスチエー先生の說を修正して、人類の生活は圓でなく螺旋形であると云ひたい。之が人生の公式で茲に向上もあり進步發展もあると思ふ。

さう云つたやうなことを十分に呑み込ませて、自分で考へさせることが、有らゆる敎育に於ける窮極の眼目であらうと思ふが、成人敎育に於ても其の通りで、今や經濟學の傾向も變りつゝあるのである。我等人類の生活は如何なるものかといふことを、說きもする質問に答へもする、討議應答によつて納得せしむるのが成人敎育の極意であらう、私は斯う思ふのである。それが爲には技藝を授くることも必要であらう、新智識を敎へることも必要であらう、產業に關すること以外に、自然科學や社會人文に關する知識を授けねばなるまい。けれども、それ等は言はゞ手段に過ぎないので、本當の目的は自覺を促し確乎たる信念を懷かしむるにある。而も、謂はゆる資格向上といふやうな意味でなく、小學敎師を中等學校敎師にするやうな考でなく、現在の地位そのまゝで滿足して、心を廣く希望に充ちて人生の努力を積み重ね行くやう、喜び勇んだ落着いた生活を遂げしむるやう導かねばならぬ。だから、成人敎育では免狀は出さぬ、講習修了證書などは決して必要とせぬのが原則である。

要するに、人類は地球上にあつて自然の恩惠を蒙つて生活する、自然の物資を如何にして獲得し、如何に利用するかゞ即ち努力の表現である。此の努力は物質に對してのみでなく、精神的のもの社會的のものに及ぶので、學科目としては技術から經濟は

云ふまでもなく、歴史や文學や哲學といふ有ゆる範圍に及ばねばならぬ。太古蒙昧の時から今日の文化を築き上げた大筋、將來は如何なる傾向を以て如何に進むべきであらうかと云ふ大勢を知らねばならぬ、たゞ現在に於ける目前のことのみでは本當の信念は出て來ない。詳細は到底分らないでも本道を踏んで大本を摑めば、正しい世界觀人生觀は得らるゝ筈、それによつて始めて本當の努力は爲し得られ、その努力は世の中の爲になり國家の爲になる。立派な努力といふことを目的とするがよい、さうすれば結果として社會人類の爲にもなるのである。國家の爲に鐵砲玉に擊たれて死ねと云ふのは、一寸無理なことであるから容易に說いても分からない。それよりも「お前の個性を十分に發揮してお前でなければならぬといふ、其の境遇での全力を盡して働けお前は社會の一員として切つても切れぬ緣で結ばれて居る、決して孤立して居るのではない」と說いて納得させれば良い。

私は、自我が何だか難しい事は知らぬが、種子に譬へるのである。相互に此世に生れた時に天性を授つてゐる。或人は松の種を持ち或人は牡丹の種を持つて居る。牡丹の種から松を育てようとしても出來ぬ。松を牡丹の育て方に取扱へば、牡丹にならぬばかりか松にもならずに終る。松は亭々として延び牡丹は綺麗な花を咲く、其の運命を覺悟し、夫れに應じた自己を發達せしめ個性を完成するのが銘々の仕事である。それを國家の爲だ社會の爲だと云つて、方便につかはれ道具にされては堪らない。自己を發揚すべく努力すれば、結果は必ず國家社會の爲にならざるを得ぬのである。斯ういふ努力の意義を十分に悟らしむるには、抽象的の說明では難かしいので、其の遣り方は大に工夫を要するが、常に目に觸れ耳に馴れて居るもの、田舍では農事を中心とし、都會では多く商工業をやらねばならぬことは多言を要すまい。

私が繰返して人生觀だの信念だのと申し、何か非常に難かしいことのやうであるが、茲に申すのは私にも分る範圍のことで、勿論我が農民の誰にも分ることなのである。哲學なども以前には難かしいと思つて居たが、アメリカの有名な大家ジエームスの名

高い著述であるプラグマチズムといふ本の而も初頭に「哲學は決して難かしいものでない、誰も有つて居るものだ」と書いてある。成程さうだらうと思つて、私共は大に氣が強くなつたのであるが、私は是でも一の哲學を有つて居るといふ自信がある。私の哲學を披露致せば、人生は護謨毬の如しといふのが私の人生觀である。護謨毬には大きいのも小さいのもあるが、大きいのが必ずしも良くない、彩色のある外觀の美しいのが決して良いと定らぬ。毬の役目は突けば跳ね上るといふにあつて、そのためには中に十分空氣を充して居らねばならぬ。直徑一寸の小さなのでも中が充實して居れば能くはねる。五寸もある大きな毬でも充實が足らないで、ぐわ〳〵なれば役に立たない。子供に小さなきん〳〵して居る毬と、大きい軟かいのと見せると初めは大きな方や色の美しいのを取る、突いて見て十分にはねあがらないと、片方を貸して頂戴と云つて小さい方を取る、その方が能くはづむと大きい方はモウ顧みない、實に子供は正直なものである。

人間も亦全く其の通りで、一寸見た所は大きい方が宜ささうに見える、色の有る方が美しいやうに見えるが、小さくても色がなくとも、中の充實して居るのが本當の値があるのである。同級生の誰彼は出世してゐる、自分は低い地位に留つてゐると不平らしいことを能く聞くが、力に餘るやうな位に居るよりも餘裕のある方がよい。彼奴は力は俺よりもないのに月給が多いなど云ふが、實際その資格がありながら待遇が劣るなら、それだけは社會へ奉公して獻上してゐると思へばよい。自分の大さの毬に内容を十分に充實すれば、いつでも是だけのことは俺が引受けるといふ工合に、落着いて餘裕ある生活が出來よう。月給の多少や地位の上下は問題にならない。運命と諦めようとするのでなく、覺悟して大に努力し、天分にあるだけを確乎と張り出さうといふ信念をもつのである。而して努力すれば國家の爲にもなり、社會の爲にもなる。斯ういふ人生觀を懷かすよう自覺を促すのが、即ち何種に限らず苟くも教育といふ以上その窮極の眼目であらう。手段方法は多様であらうが、此の根底であり最終である大

主眼を先づ摑まねばならぬと思ふ。（大正一四、六　成人教育講習會に於て）

職業につきて十分智的並に社會的意義を認めてをる教育では、歴史的背景から現狀を說くであらう。科學では、生産資料を取扱ふときの賢さと創案力を授ける。經濟や政治や公民科では將來の當事者たらしむべく、時事問題及び色々提唱されてゐるその對策に觸れて導く。殊に變遷する事態に伴ひ得る適應性を養つて、唯その世情に隨從するのでないやうに訓練する。かくて、現存する教育傳統の惰性を以て滿足せぬのみでなく、實に産業機關を支配してをる――かゝる教養法が普及したら、自家利益のために他人を使つて來た權能は失ひさうだと悟つてゐるものだち――もの、反對を期待してをるのである。

（ジョン・デユエー『デモクラシー、エンド、エデユケーション』）

八　農村青年

都會と田舍

農村の青年も人として別に都會の青年と根本に違ふべき筈はない。たゞ、人は環境によつて大なる影響を受け、また境遇によつて適應して行かねばならぬのである。

人類生活の舞臺は農村が元で、それから文明の進んだ結果として都會が出來た。今日は多く之が逆であるかの如く考へられ、例へば都會を本據と見るから、農村を地方――ぢかたと昔は讀んだ――などゝ向うに廻して考へる。之は西洋でも同樣なことで、田舍といふ言葉は「向うにあるもの」といふやうな意味があり、文明といふ言葉は都會から起つて居る。或學者は農村は生産の場所で、都會は消費の場所と考へ、都人は村民の食ひ餘しで生きて居ると云つた。酷のやうだが一面の眞理のある言ひ方で、昔の都市發達の沿革に見て間違のない點もある。然し、之は今でも左樣であるやうに考

へ少しでも都會人を輕んずる意味を含めたら大間違である。農商工その他の職業に貴賤上下の別なきは元より、現代の複雜を極めた社會では、都市が田舍に賴らねばならぬと同樣に、農村も都市に賴らねば生活して行けぬ。相持ちの世で、共存共榮の外はないのである。

人は生存の資料を自然から得るといふ點から、人類と大地との關係は最も根本にあるものだが、都鄙を之によつて分けて見ると、一は割合に狹い所に多數の人が住ひ、他は人少くして土地廣いと云へるのである。此の比較的に過ぎぬ差異から、喧しく說述せられる都鄙の別が起り、外觀にも著しく分れて業務も違へば人口組織も違ひ、隨つて品性にまで及ぼすといふに至る。確にさういふ點も認められて、双方に長短美醜を擧げ得らるゝが、最近の庶物發展に照すと、一度は都鄙に著しく分れたのが更に漸次に相近づき、都は出來るだけ田舍化しようとし、鄙は大に都氣分を加へようとする傾向である。例へば、家屋の密集は軒を並べて繁華だと得意にしたのであるが、餘りに忙しく喧しきに堪え兼ねて、盛んに公園をつくり廣場を設け、竝樹を植ゑ花を市內に咲かさうとする。都市計畫とか區劃整理とかいふのは、成るべく田舍のやうな氣持をつけようとするに外ならぬ。又交通の發達や機械の利用は、農村の生活が如何にも後れて不便なものゝやうに思はせたが、近い將來には山村僻邑でも多くの利器を使ひ、電氣などを大に普及せしめて必ずしも都市に劣らぬ見込がある。今までのやうに、都鄙が全く別世界であるやうには考へなくなるだらうし、實際に田舍で日常の生活が便利に、都市への來往が簡單に出來るやうになれば、誰も好んで狹い都市にのみ住まんとは考へぬことにならう。

然し、大體に於て都市は商工の行はれるといふに對し、農業の主として行はれる所が田舍である。農村と呼んでも其の住民の內には色々のものがあつて、その悉くが農業者だといふやうな所は殆どない。また、農村に生れたからと云つても、その皆が長じて後に其の村に留り農に從ふことは出來まい。たゞ農村にあつて育ち行く間は、農

といふ環境を脱することは出來ず、農によつて學び農によつて進み行かねばならぬ。人類社會の舞臺を假に都鄙に大別し、鄙の使命は何であるかと云へば、色々のことを隨分多く數へ擧げられやうが、農村では生活の原料を供給するのである。科學的に人の食物や衣料が製出し得られない限り、人は農によつて生活の安定を得る外はないので、農業者たるもの此の重大な責任を感じ、その業務の意義あることに自負すべきである。尙田舍の自然に近く接した生活から、農村の長所とする特徴は少くないので、人物は都市よりも田舍から多く出る。農村は人物養成の苗圃で、都市は鍛錬の本圃だと云つた說もある。勿論人物は我こそはと自ら出て行つても出來るものでなく、農村の青年たるもの常に之を思つて、先祖から傳へた田舍の眞相を改むべきは改めて自己の双肩に荷ひ、將來に永く人物の苗床たる環境を失はぬやう努めねばならぬ。

十九世紀以來、都會の發達は程度を超え、子女の農村を去るもの相次ぐといふ現象が著しい。その原因は大に研究せられ防禦といふか、保善といふか色々の方策も講ぜられつゝある、目下大問題の一をなして居る。何處の國でも農村は有爲な青年子女が少くなり、都市は徒に人が多くなつて失業者が增す、何れも困つて居るのである。都市の貧乏町は實に悲慘な狀態にあり、其處に這り込んで暮す人達は、殆ど悉くが田舍から出て來たものばかり、千人か萬人の內一人だけが大に成功するので、その一人が目について我勝に出る、思慮がないと云ふか分別がないといふか、云ひやうはないのであるが現代の趣勢なのである。農村の青年は十分に此の邊のことを考へ、出でゝ都市の活躍に適するものは出づべきだが、留りて田舍に自己の本領を見出すことも大に考へねばならぬ。抑も人は如何に暮せばよいのか、平和な安樂に一生を過すのが本望であるに相違ないが、從來は何でも澤山の金を得たら良いといふやうに誤つて居た。之は經濟學にも迷はされ易い點があつたので、生產を多くすればよいと說くこともあり、生產は金目に積つたから、農業などは利の薄いものと許り早合點した。然し、生

産は消費の爲であり、生活に使ふために産出するといふ一の手段に過ぎぬのである。手段をのみ思へば農業は詰らぬものにも見えやう。空氣の清い自然の美しい、呑氣な農村の生活といふ本來の目的に重きを置いて考へると、都市の窮屈な生活に比して田舍の豐富さを解し得られる。之は社會觀人生觀から築き上げねばならぬ、深い大きな一の哲學から來ねばならぬ。聞いて分ることでなく、各自が悟つて體得せねばならぬことである。茲に是れだけを云つて置けば、青年として何も都鄙を分けるに及ばぬと思ふから、以下一般の青年に關して說くことにしよう。

青年期

青年とは子供と成人との中間であるが、之を「青い年」と書くのは何故なのか。支那でも其の例がないではないさうだが、通例は用ひないのである。青は春の色だと云ひ青々子衿と詩經にあつて若い書生を青衿――襟に青布を附けたから――といふことはある。寧ろ少年とか弱年とか云ふので、盛年といふのは同じ意味ながら心持が違ふ。西洋でも「若いもの」といふ意味の言葉があり、英語でユース（Youth）といひ佛語でジユーヌ（Jeune）といふの類はあるが、青いとも黃いとも呼ばぬ。却つてアドレツセンス（Adolescence）と英語でいふ類が味ふべきで、「生長するもの」との意義である、何處かに支那の盛年と似通ふ點がある。我が邦で特に青年と呼ぶのは赤子に對照したものとも思はれず、別に面白い意味が含まれて居るかと考へられる。即ち「年」といふ文字は禾穀の穗に關係がある。青いとは嚴密には綠のことであらうが、丁度「青い穗」に比ぶべきものといふのである。青年は人生の花であると能く云ふが、それよりも青い穗であるといふ方が本當らしい。

籾から芽を出して莖が延び葉が繁り、やがて出穗して花を開き實を結ぶが、穗が出揃つた所で稻の形は完成され、內に結實の力が十分に貯へられたのである。その力が動いて花となり實となる、外の形に變化はないが、漸く黃褐と色がついて、黃金の穗から一粒萬倍の米が得られる。此の形は出來たが內容は是からといふ、穗の尙綠であ

る時が即ち青年なのである。未熟であるが盛んに完成しつゝ、元氣甚だ旺盛といふのが青年の特色である。從來普通に男は十五から二十五歳位まで、女は十三から二十一歳頃までを青年期として居る。一概に年齢で限定することの出來ぬのは元よりで、大體その邊と認めて差支ないと思ふが、良ければ純清な眞直な熱心な美しい「青春」、惡ければ生意氣な粗暴な役に立たぬ「黄啄」となる。西洋では「鳥でもない魚でもない」といふが、蝙蝠に譬ふれば甚だ妙を得てをるかも知れぬ。

青春期に就いては、アメリカの大家スタンレー・ホールの研究が有名で、その外にも多くの學者が取扱つて其の體格、健康、生理、心理等に及び、今は凡そ準據とすべきものは明になつた。茲に、夫れ等研究の結果を說述して居る餘裕はないが、修養を積まんと心掛けてゐる青年自らも、指導して行かうとする教育者も、共に此の青年期の如何なるものかを十分に知らねばならぬので、相當に之が研究を致すべきである。

外形は備はり內容を充實すべき時であるから、動もすると成人となる準備期に過ぎぬと考へられ、青年それ自身の本領は別に無いかのやうに扱はれたが、莖は莖で葉は葉で銘々立派な役目がある通り、青年にも夫れ自らのものがある。兒童にもない成人にもない、青年にのみ存する獨特の舞臺に活躍して本領を發揮すべきで、熱心に元氣があるといふのは確に其の特色の一つ。唯その元氣は善い方面にも惡い方面にも發露する。元氣そのものは必ずしも讃むべきでないのである。兒童の時には解し得なかつたことで、老いては再び味ひ得られぬものを、青年は十分に享樂すべきであるが、常に其の身心の未だ完熟せぬものたることを忘れず、元氣に任せて行き過ぎぬやう、老いても後にユックリ爲し得られることを急がぬやうに、眞に本領であるべきを十分に判別することが肝要である。

凡そ、人の生れてから以後を見ても、其の發育は全體に亘つて爲さるゝが、部分によつて程度は同じくないので、例へば大人の脚の長さは初乳兒の夫の五倍にもなるが、

頭は二倍許になるに過ぎぬといふ。また試に稚兒の顏面を上下に折半して見る、その線は兩眼の上にあるやうだが、大人で試みると正に鼻の上に來る。斯の如き割合の差異は外形ばかりでなく、內臟でも同じで殊に心理に色々の變動がある。繪畫に對する傾向を見ても、五歲六歲までの稚兒は出來上つた形を喜び、それから十歲位までは想像で描くことを樂しみとし、完成したのは他人に譯の分らぬ繪でも、或意味をつけて自分は喜んで居る。所が更に長ずると批評眼も進んで來る、活動してゐる想像を十分に表はすは難しく、假し畫き方の技能は隨分進んでも、自己の繪に對して甚だ不滿を感ずるためでもあらう、一時その趣味が減却するに至るのである。而して特に才あるものは、青年期に至つて再び繪を畫くやうになり、更に一倍した熱心で創造を喜ぶので、出來上りの如何は第二であつて、描くといふ仕事そのことに大なる樂しみを感ずるのである。斯かる事例を一々擧ぐる必要はないので、要するに、青年期は生涯の內で最も大きな變化の起る時、終生の傾向が左するか右するかといふ大事な分岐點であることは、科學的に事實で證明されたと思へばよい。

教養と農事

「人の行爲は生活の四分の三を占める」とは、イギリスの評論家であり詩人であり、又久しく文部督學の任に當つて居たマッシュー・アーノルドの言つた味ふべき語である。又哲學界の偉人ショーペンハウエルは、生涯の「三分の一は智能で三分の二は意志」だと云つた。この「行爲」といふことが如何に重大なものであるかは、更に論述するに及ばぬであらうが、實に人の動作行爲は活きることの基であり、生きてをる甲斐あらしむるものである。而して、行動の根原が筋肉にあることも言を待たず、巧妙や不撓や耐久は筋肉の長所で、疲勞や不安や移り氣は其の短所であるといふ。此の筋肉の發達狀況を察するに、肩や胴や脚などが根幹であり、その動作は簡單で他の動物と餘り違はぬが、手や顏や耳や舌などは甚だ複雜で、讀んだり書いたり話したりするに至つて人類獨特とも思はれる。青年は此の筋肉の練磨成熟を先づ考ふべきで、順序よく

各部分が均整に調和して、圓滿に發達するやうに努めねばならぬ。近世の工場で機械勞働に從事するのは、兎角に偏して片輪になる弊があるから、少年未成年に對して使役を制限することになり、婦人勞働者にも深く警戒するやうになつて居る。人力を省く機械は甚だ便利であるが、使用する――現代工場の眞相は寧ろ機械に人が使はれて居る――勞役者の筋肉を平等に働かせぬから、其處に色々の缺點を見るので、殊に神經系統を徒に多く勞せしむるは眞に悲しむべきである。田舍で自然兒として青年期を經過し、多趣多樣な農事で練磨した筋肉は、他に殆ど比すべきものはなく、極めて圓滿に發達するであらう。スタンレー・ホールも青年敎養の環境として、農場が他の多くの場所に優ることを論じ、「其の故は仕事の多趣なること、事情が健全なること、及び太古から傳へた計り難い種族的勢力の爲であらう。統計書によつて小都市にも普通な六十許りの諸職業と比較して見たが、農場は啻に體格として業務としてのみでなく適當に社會的並に宗敎的の要素をも含み、我が憲法の草案者などが考へて居たやうな丁度その理想を表示して居ると思ふ。……

……近年發達した學校園も自然研究の新しい一勢力であるが、農場實習は田園を愛し趣味を自然ならしむる、……」と云ひ、便利な設備に賴るの弊を說き、原始的な生活狀態で訓練するの長所を說いて居る。イギリスに起つて今は我が邦にも組織されたボーイ・スカウト――少年團――で、露營したり種々の手業を重んずるのは、全く行き詰つた現代の都市文明に省みての工風である。思ふに、人類原始の狀態では先づ生活の要素を得ねばならぬ。それが爲に筋肉を使つて動作し、次で保安のために娛樂のためにと進んだが、現在の心掛でも此の順序が肝要である。金さへ出せば買へる、店にさへ行けば物は陳べてあると多くの都會人は考へて居るが、先年の大震災に際して幸に無事であつた家で、有るだけの白米を食ひ盡した後、三日目には糧食缺乏の憂に始めて深く考へたのであつた。

體育

筋肉の練磨には農事の作業などが最も良いが、その他の色々の手細工も甚だ良いことは云ふを要せぬので、大工になるためといふのでなく、人としての心身を發育せしむるために、「手工」といふ科目を教育上に重んずるのも考へ合すべきである。手細工や農圃工場の實習は、いふまでもく單に筋肉を發育せしむるのではなく、實に之が腦力をも心情をも發達せしむるので、學者は其の効果を說いて、(一)思想を摑み之を形體に現す能力を養ひ、(二)體中の神經と筋肉を利用して方法、工風、手段、發明、器具等の一大蓄積を得る、(三)技藝發達の歷史を理解する、(四)技能に熟練するなど說いた。故に、唯その手を振り足を擧げて體力は養ひ得るものでなく、殊に其の効果は心にまで及ぶものであるから、一定の整つた秩序あり規律ある練習を積む必要がある。

空氣の淸い野に出て鍬を持つて働いてゐるのだ、別に體操や運動など百姓には要らぬと思ふのは間違である。成程その作業は前陳の如く甚だ好適なものだが、矢張り偏するのは免れぬし、秩序に申分がないといふわけには行かぬから、體操によつて整調し調練することが必要である。教養上に體操の變遷も深く味ふべきで、ドイツのヤーンは「體操の父」などゝも呼ばれて有名だが、人體を器械であるかの如くし、其の各部を動かして面白味などは別に考へずに、理窟づめに筋肉を鍛錬しようとした。その効果は元より大きいのであるが、「心は體を支配する」といふ諺もある通り、たゞ無暗に手足を延したり曲げたりするよりも、情味をつけて自然の動作に從ふが更に良いと、彼のスエーデン式などが唱へらるゝことになつた。更に、筋肉を强く動作を圓滑にする許りではない、姿勢を正しく各部の釣合をよくし、骨や筋肉や肺や心臟などの官能を、夫々無駄がなく十分に働かしめるが肝要だと說き、何れも決して相容れぬものでなくて相伴ふべきではあるが、色々の考案が出て互に主唱されて居るのである。されば百姓でも大工でも謂はゆる汗を流して働く外に、相當の體操は心身の發達に甚だ有用たることを認めねばならぬ。

「若い時には心身を吝まずに使ふ」といふことが、進歩發展の秘訣である。云ふまでもなく、惡く使ふのでなく良く使ふべきことは分つてゐるが、良く使ふと云ふのは何も謂はゆる仕事ばかりせよとの意味ではなく、良く遊ぶといふ事も忘れてはならぬ。人間行爲を學者は大別して勞働と遊戯とに分ける、手足を動かし心胸をつかふといふが、凡そ人の作爲は此の二つに出でぬのである。此の説明の詳細は別の書物に讓るとして、畧述すれば「勞働」は苦しいことで、何か外に目的があつて其の手段であるから、出來るなら爲さずに濟したく、面白いものでないから苦痛を覺え、それで報酬を貰はねば誰もせぬといふものである。「遊戯」でも同じく心を勞し筋肉を動かすが、心身を動かし使ふ其のことが目的で、他にある目的のための手段ではない。故に汗を出して疲れても面白いので、誰に賴まれないでも報酬を貰はないでも、自ら進んで爲すことを喜ぶのである。例へば、此處から向うの山まで何分で行けるか一つ走つて見よう、隨分苦しいのではあるが一秒でも早く到着したいと、走る其のことが面白いので樂しみとなる。同じ道を同じ距離だけ足を運ぶに過ぎぬが、あの山まで行つてドウして來なければならぬといふ一つの目的たる用向があると、走つて行くことは唯その手段に過ぎぬから、苦しいことになつて樂しみではなくなる。

尤も昔の生活が呑氣であつた時は、働くのか遊ぶのか分らぬやうな狀態で暮した。漸次に文明の進むと共にセチカラくなつて、働くにはシツカリやらねばならぬ。笑話しながら鼻歌やりながら仕事するわけには行かぬ。シツカリ働けば夫れだけ苦痛であるから氣晴らしに休息せねばならぬ、遊んで息拔をやらねばならなくなつて、此の二つは今は判然と分れるやうになつた。一般に斯くして能率は大に擧つたが、他面には勞働時間を短縮せねばならぬとか、何だか機械のやうになつて人間味が減少するとか亦色々の缺點も出て來たのである。人は生きてをり精神があり氣持が大切だから、さう數學のやうに又は物理學の理論通りに動けるものでない。眞劍に規律正しく働くことは愈々進めねばならぬが、働くからと云つて機械化せぬやうに、更に進んで仕事を

遊びのやうに樂しくする、意義は大に違ひながら昔の心持となる事も肝要である。

「人は遊ぶ時のみ全體である」といふ西洋の諺は、無我の境に餘念なき意味であらゞが、遊ぶといふことは實に人の天性で、女兒が七八歳から人形を弄ぶ眞情など、天心爛熟といふべきか他に比べものなき美しさを示す。十五六歳にもなると人形では情がうつらぬためか、多くは餘り興味を感ぜなく何か他のものを要求するが、それでも中には結婚してからも子のない人など、他人には隱して美しい衣服を着せたり、三十歳を超へても矢張り人形を可愛がつてゐるのもある。或學者の研究によると、七歳位までの兒女は大人に指示されないで、自分の發意では餘り勝負を競ふやうなことをせぬが、それ以上、十二歳位までは何でも仕合で一騎打の競爭するのでなければ樂まぬ。それ以上、青年初期とでもいふべき十七歳までは仲間をつくつて一所にやる、團長の命を奉じて多少自己を抑へるといふ傾が出來る。尙此の頃の遊は粗暴な戸外でやること——鳥獸を捕へる、走つたり水泳ぎ、冒險、喧嘩、また時には盜むといふことも必ずしも惡意なく行はれたりする——を好む。殊に男兒がさうであるが、社會的で猛勇を振ひ熱烈なことを喜ぶ。女兒は十歳位から驅けたり馳せることを止め、機運に當るやうな遊戯を喜び、十六歳頃から一層その傾を强めると云はれて居る。更に年齡が進んでも同樣で、時代毎に夫々の趣味があるから、能く其の時に應じた遊戯をなすべきことは、分り切つてゐるが注意せねばならぬ所である。

歌謠・舞踊

青年期は調節の理解を發達せしむる最好時で、歌謠や朗讀や奏樂を喜び、手拍子足踏をも大なる樂しみとする時である。「散文の父は詩である、詩の父は音樂である、音樂は調節に起り、調節は神に基く」といふ古語がある、此の調音和聲は深く心靈に響くもので、古の支那の敎でも禮樂を重んじた。十分に此の意味を汲んで、よく調節を味ふべきであると思ふ。

舞踊は亦よく青年の精神的並に身體上の要求に適應し、何處の例を見ても昔から此

の舞踊を無視した所はない。野蠻人は何かといふと直に踊り出すが、文明の進んだものでも祭典儀式に用ふる位で、盆踊がなくては村に生きてゐる甲斐がないといひ、念佛踊に婆さん爺さんまでも出て、西洋では機會さへあれば夜會ダンスをやらうとする。多くの民族や地方には各その特有な舞踊があり、何處に行つても想ひ出の種となり、新しい時代が來ても古いものが失はれぬ。スコットランドやスペインやボーランドや何れも名高いが、我が邦にも木曾踊やオバコ節や、到る處に其の獨特な永く保存させたいもの――漸次に改良すべき點はあらうが――は澤山ある。

競技・教練

競技は亦青年の甚だ好むものだが、その心身の發達と修養に甚だ適して居る。角力なども互に力を爭ひ技を競ふ所に、單に勝と負をのみ苦にしてはつまらぬが、極めて面白い貴いものを含むで居る。西洋にも鬪拳がある劍法がある。ドイツの青年學生はメンヅールと稱へて、一種の劍術を平常盛んに稽古し、時折眞劍――長いサーベルで先端五寸許に刄をつける――でやるから、頭から顏に繃帶してゐるのを能く見る、大きな傷痕の顏にあるのは、老年になつてからでも隨分ゆかしいものだ。我が邦には世界にも羨ましがられてゐる柔道や劍道がある、單に鬪つて勝つ爲のものでなく、身體を練り精神を養ふに偉大な力のあることはいふを要すまい。かゝる單獨のものゝ外に團體的の競技は更に意義が深いので、旗奪ひ等からベースボールやクリケットなど、進み退く戰法に深い意義があるのみでなく、謂はゆるスポーツマンシップといふ道德、正々堂々として勇ましく行動する、卑怯なダマシ打を斥けて負けても恨まぬ、そこに甚だ貴ぶべきものがある。

軍隊教練は遊戯と同視してはならぬものだが、又餘りに假想敵に熱中して戰爭に捉へられてはならぬ。一旦緩急あらば國民擧つて立つべきは論なく、其の時の準備として教練するはよいが、戰爭は決して目的でもなく希望する所でもないので、國際の平和は永久に保存したく、平和の世でも軍事教練の價値を考へねばならぬ。即ち教練そ

のものを目的として、心身を鍛錬することに重きを置くべきで、規律と軍法の嚴肅さを十分に體得する、生命を賭して行ふことの如何に貴きかを悟るべきである。克己や忠節や廉耻や義勇の何であるかは、戰時の美談で能く了解し、之を平時に心掛けて愛國の眞意義を汲み、國旗の下に名を重んずるの精神を養はねばならぬ。

風流

「武を練り文を修め餘力藝を習ふ」とは昔の我が武士の心掛であつたが、青年の動き易く感じの鋭きことは、常に風流を樂しむの修養にも適して居る。かの熊谷直實を發心出家せしめた敦盛は、陣中に愛好する青葉笛を携へて居た。上杉謙信の越山併得能州景の一詩は、千古に傳はつて其の風流を慕はるゝのである。平常から歌でも俳句でも又は横笛や尺八でもよい、餘りに耽つて本分を忘れるといふのは論外だが、何でもよい相當な心掛は甚だ喜ぶべきである。「百姓に學問は要らぬ」とは昔の話であると同樣に、今後は「田を作りながら詩をつくる」考があつてよいと思ふ。云ふまでもないが趣味として樂み心を養ふためであるから、眞に心から味ふのでなければならぬ。徒に人眞似をして風流振り、傳統舊習に捉へられて低級に陷つてはならぬ。掛物に對しても字なり繪なりを、自分が眞に愛すればよし、たゞ何法眼の筆だなどと物體ぶり、甚だしきは内の本物は暫く措いて、夫を納めてある箱の上書がドウだカウだと、迷信的の骨董道樂になつてはならぬ。如何に有名な作でも、今の自分には嫌といふことがある筈、後に眼が肥えて分るかも知れぬが、それまでは好まぬは好まぬと正直に云ふのでなければならぬ。

それから、總て遊戯や競技や其の他の娯樂に就き、男ばかり又は女ばかりに適したのもある、男女が一所にやつて甚だ良いのがある。「男女七歳にして席を同じうせず」などいふのを、妙に我が邦では不適當に應用されたやうだが、人は本來男女を合せて始めて完全なので、其間を隔てゝはならぬもの、互に相解し相知るべきである。何事

につけても出來ることならば、男女相共に勵み一所に樂しむやうに、身體にも精神にも長短相補つて行くべきである。其の分を嚴守し禮儀を正して居れば、助け合ふの大なる利益があらう。時に間違の起るは誠の足らぬからで、大に戒むべきことではあるが餘り心配過ぎぬが良い。

斯くて、大に勤めて大に遊ぶべき趣旨は能く分るものゝ、その程度を適當にすることが難しい。野蠻と文明の間の著しい一の區別は、此の行爲動作が不規則であるのと段々に規則正しくなるのとにある。されば、働いてゐるのか遊んでゐるのか分らぬやうでも困まる。窮すれば破れ着物で仕事に骨折るが、少し餘裕があるとサッパリした服裝して遊び歩きたい、ある時はあるだけ使ひ無ければ一文も持たぬ、などゝいふのは決して文明の進んだものと云へまい。勤めるだけは規律正しくやり、必要なだけは休息もし遊もする、常に相當な餘裕を有つて、餘力は將來の爲に保存貯蓄する、そこに向上もあれば落着も出來るのであらう。

文明と舊慣

現代文明の弊とも見るべきは、大に働くが忙しくて時間が少いから、强烈な濃厚な樂しみを要求することであらう。例へば、足利時代から發達したと云はるゝ能狂言は如何にも悠長としたもので呑氣だが、今の人には大概は間抜けて堪へられぬ。芝居でも昔は幕間も長く、飲食しながら舞臺を背にして見物したものである。活動寫眞が大流行の世となつた許りでなく、それも自働車が突當つて引繰り返つたり、何百尺もあらうと思はれる高い所から人が落ちたり、見てヒヤリとするやうな舞面を好むのである。文明の當今では皆が神經衰弱に罹つてゐるといふが、斯かる短い時に强烈なものを樂しんで息抜をするのは、止むを得ぬことかも知れぬが深く考へねばならぬ。悠長な閑靜を味ふだけのユトリがほしく、茶の湯などゝいふ——之も徒に形式に捉へられてはならぬが——我が邦に獨特なものは、何とかして新しい洋風に吹き飛ばされぬやうにしたい。ヨーロッパでは氣候の關係もあらう、秋の夜に月を賞し虫を聞くといふ

類の閑靜を味ふことは餘りなかつたやうだが、心ある西洋人は此の我が邦の風習を聞いて驚き讃嘆するのである。

秋の滿月に豆を供へ薯を供へて祭るのを、月を恐怖した太古の遺俗に過ぎぬと云ひ、月に供へて夜露に曝して何の價があらうなど、餘りに理窟で事を始末するやうでは情ない。說明の容易に出來ぬ所に言ひ知れぬ味もあるので、唯やり來りだから何の考もなくやるだけでは物足りぬが、古い昔からの習慣や風俗は各地方に色々面白いことが多い、其の心持を深く味つて、出來るだけ保存して後に傳へたい。迷信に陷つて害のあるもの、又は罪惡の便宜に供せらるゝもの、そのほか禁絕せねばならぬものも元よりあるが、何百年も長い間傳へ來て陰微に强い力のあつたものを、淺はかな理智で輕はづみな打壞は先祖に對して濟まぬ。深く意味のある事柄を餘り考へもせずに棄て去り、後の進んだ子孫に笑はれるのも殘念である。地方の舊慣故俗は之に捉へられてはならぬが、十分に其の意義を思つて保持して置きたい。傳說や俚謠に深い味があり、各その地の特色を發揮して居ることは知れてをるが、新しいものゝ取入に忙しいと兎角忘れ勝になる。我が維新の改革は何事にも古きを棄てゝ新しきを採つた。夫も必要であつたと考へられるが、竹には木を接ぐことが出來ぬもの、一時の打壞は止むを得なんだとしても、矢張り眞の發展は其の國土に深く根を下し、其の地方に育つて延び行くのでなければならぬ。習慣や傳說は誰いふとなく出來て、久しく其の地に育成されたのであるから、根柢も深く能く眞情を表現してをる。明治は輸入が急であつたかも知れぬが、他から移しても眞に能く育つものでなく、また何時までも眞似て後から附いて行くでもあるまい、今後の青年は我が獨特の發展創設を期せねばならぬ。大にしては東洋の特色といふべきであらう、我が帝國の光を發揮すべきであるが、それには各自の鄕土から先づ手を下すので、その鄕土に存在し育成されたものを尊重し、それを基礎として高く築き上げられねばならぬ。盆踊や祭禮の催物、俚謠や傳說は元より、木彫、竹細工、土製の玩具の類に至り、鄕土の趣味は實に盡きぬのである。

青年の客氣

更に青年の陷り易い缺點も考へて置くべきだが、長所と同じやうに、その「元氣がある」こと「未熟」であることから來る。諸方で學者が色々の研究をして居るが、イタリヤのマルローといふ先生の調査によると、三千人餘の中等學校生徒に就き、良中不良に三別して操行を調べた所、その良といふ評點を得たものが、十二歳から十六歳までに少く、殊に十四歳が最小で百人中の五十八人に過ぎず、十一歳では同じく七十人、十八歳では七十四人の割であつたといふ。即ち、十三歳十四歳が生意義盛り、最も罪惡にも陷り易いといふのである。我が邦でも六年の義務教育だけしか受けぬ青年が多數を占め、尙進んで中等の學校以上に進むものは極めて少いが、尋常小學や高等一年二年を終へた丈で、世間の荒い浪風に出て行くことを思ふと、實業補習教育が最も急務であるのを痛感する。親の手元で別に心配のない時だけ學校教育を授け、丁度最も案ぜられる危いといふ年頃に、浮世に獨り立して行けといふのである。教育を授けるものから見ても受けるものから見ても、此處に一つ大に力を注がねばならぬので、その役目を補習教育が掌る、青年は之を先づ考へて置かねばならぬ。

元氣があるから負けることが嫌いで、負けても負けぬ氣で居りたい、强さうに偉さうに見せたい。心からではなくても、其の場の體裁をつくるために虛言を吐くことも青年に能くあることで、一度の虛言は重り行いて遂に常習ともなる。力のあることを示したくて飛んでもない方面に發展し、鳥や魚を殘酷に取扱ふは未だよい、何々義團などゝ名實反對な仲間をつくり、喧嘩を賣り歩いて得意になつたり、甚だしいのは物を盜んで誇つたりする。不良青年男女の能く出るのは、實に微妙な境目で、決して元來の惡意からではないのである、我が農村にも西瓜や梨を盜んで、青年同志に得意にするやうなことがあつた。宵祭の前日にはまだ少し早いと思つても、裏の柿は皆採集せねばならぬことがあつた。折角植付けてある杉や松の若木を、草刈の歸途に伐り倒して喜ぶ。其の時は左程のことゝ元より思はなんだが、後で村の問題となつて始めて驚

き、密に深く悔いては居るが、意地は逆にはたらき、素直に自首して詫ればよいのを飽くまで知らぬと頑張らうとする。未だ思慮が足らぬのであるから、失敗するのは當然であり、失敗を重ねた經驗で進むのであるが、過失を自認して「參つた」といふことが難しい。

未熟ながらに外形は整つたので、青年は亦自分を買被る事が少くない。格別役にも立たぬくせに、恰も自分が花形であるかの氣持になり、功をのみ思つて過分の賞與を夢みたりする。一知半解であるから早合點が多く、物の一面しか分らないから偏する、それを我こそ悟つて居るやうに思ふので、他人が低く古臭いやうに見えるらしい。能くあることだが妙な新說にかぶれ、眞理は夫れに限るかのやうに感心し、熱烈に其の偏した横道にのみ迷ひ踏み込む。かの危險思想――實は如何なる思想でも能く味へば決して危險といふ筈はないが――に捉へられ、頭の內で消化されぬ內に實行に取かゝり世の物笑となり爪彈となるなど大に警戒すべきだ。若氣の至りといふ事がある、間違つたら出直す事の出來るものは、思切つて試みるのも良い經驗になるが、取返しのつかぬ事柄は十分に考へ、先輩の意見には分らないでも暫く從ふだけの愼が要る。

現實に生きる力

一體、人として生れて來たには深い因緣があると思ふが、何も自ら生れようとして出たわけでもなく、殊に某國某村某家を自ら擇んだわけでもない。此の世に生れ來て何も知らずに育てられ、稍々長じて物心が付くやうになると色々の考が浮ぶ。同じ生れる位なら有福な家にと思つた所で、何故に自分はモット樂しい、學問のある家庭に生れなかつたと恨んだ所で、現實に存在する所を如何ともすることが出來ぬ。生れぬ前に此の世の社會は成立して居り親や兄姉が嚴としてある、夫れ許りか後にも弟や妹が生れ、切つても切ることの出來ぬ緣で結ばれる。此の事は、我等の暮して行く上に先づ深く考へて覺悟すべきで、境遇の良いといふのも惡いといふのも心次第、此處に自分は存在して世の爲に盡さねばならぬのである。「我は何處に在るのか」といふ事を

能く考へて十分に悟つたならば、各自の生れた甲斐あるやうに努力し、其の使命の何たるかを知ることが出來よう。廣い世間には氣の毒な話も隨分あるので、心掛の良い勤勉な人が不幸な境遇に陷る、天道是か非かと嘆ずるのであるが、更に深く考へると測り知れぬ神意の存在して居るものらしい。「暗い陰氣な境遇に置かれるよりも、明るい陽氣な境遇にゐて、面白く人生を送りたいのは、人情として尤もなことである。然し其の暗い境遇にありながら、道を踏み迷はずにその本分を全うすることが出來たとすれば、その人の爲したことは明るい境遇でした時よりも一層明かになつて來る」とある先輩から聞いたが、斯の如く思ふのは確に大切な一面である。

その境遇に甘んじて修養を積み行くには、先輩の經歷談や傳記言行錄が大なる助となる。殊に友人と互の煩悶を語り合ひ、告白を交換して相共に進むべきである。今や青年團處女會が各町村に組織せられ、全國を聯合して强固なものとなつて居る。青年團には攝政宮殿下からも「國運進展ノ基礎ハ青年ノ修養ニ須ツコト多シ、諸子能ク內外ノ情勢ニ顧ミ恒ニ其ノ本分ヲ盡シ、奮勵協力以テ所期ノ目的ヲ達成スルニ勗メムコトヲ望ム」と尊き令旨を賜つて居る。此の青年團が今日の隆盛を來したのは、明治の中葉から識者の努力により朝野の人士が熱心に奔走した結果である。東京の神宮外苑には宏壯な建物を完成し、本部とするといふよりも、全國の青年團が相互に連絡する交叉點となつて、將來に活躍しようといふ愉快なことになつた。二千人を收容し得る大講堂五百人を入れ得る中講堂、三百餘人が集まり得る大食堂を始め諸設備を具へて優に五百人、少し無理すれば八百人は宿泊が出來る。此の會館——たしかに一の殿堂である——は全國に散在して居る青年團の所有で外の誰が持つてゐるものでもない。斯くの如き隆盛を見るに至つたが、青年團は決して中央から出來たのでなく、命令によつて組織されたのでもなく、明治時代に始まつたのでも元よりない。實は青年自らが隣近所の人同志と築き上げ、部落から村へ郡へ縣へと延長したのである。昔から何處にも「若者連中」といふのがあつて相寄り相集まり共に勉め共に樂しむだので、青

年自らの要求から出來た。時には元氣に任かせて無理を押通したり、弱點を發揮して親達を泣かしたこともあつたが、全國を連合して本來の正道に立歸り、二千有餘年の内に輝いた歴史の國を、將來各自の双肩に荷ひて、更に遍く世界を照さんにするに至つたのである。

天分を發揮せよ

大に修養を積んで偉功を立てんとするは皆人の願で、「虎は死して皮を留め、人は死して名を殘す」とあるが、内閣總理大臣は一時に一人あつたらよく、誰も彼もが楠木正成や太閤秀吉になれるものぢやない。高い地位や大きい仕事ばかりが決して我等の目標でないことを能く悟るべきで、エライ人といふのは何であるかを十分に知らねばならぬ。松には美しい花はないが亭々として高く延びる、牡丹には食ふべき實はないが纖妍たる花が咲く、稻や麥は莖や花に目を牽くことはないが一粒萬倍となる。人にも夫々の天分があつて、華かな舞臺に飛び廻る人もあらう、狹い山里に靜かな生涯を終る人もあらう。天から授かつて持つて生れた天性を十分に發揮し、その力量を無駄なしに使ふといふのが、我等の爲し得る爲さねばならぬことである。それが天下に名を成すかも知れぬ、大きな世益となるのでもあらう。蛙が牡牛を見て自分もあれ位になれさうなものと、腹を膨らかして終に破れ死んだといふ話がある。蛙は蛙として十分に發達すべく、瓜は瓜として茄子は茄子として生くべきで、何でもない此の事を悟るのは極めて難しい。二宮尊德は今でなら郡技師位か、その地位は決して高いものではなかつた。近江聖人と呼ばれた中江藤樹は老母の膝元を離れぬといつて偏村から出なかつた。俳人一茶は、雪深い山村で日常茶飯事を句にして暮した。時の將軍や大老は誰であつたか知らないが、此等の人は大なる感化を現に我等に及ぼして居る。

廣く名を殘すだけの力と運がなくとも、その感化は必ず一家一族に及ぼし、一村の友人に忘れられないやうにはなれる。「あれにやらせたら」「あれに相談したら」といふ、此のあれと云つて頼みにせられ力にせらるゝ人になればよいので、誰にも代理の出來

ぬやうにならねばならぬ。それには自分だけが持つて生れて居る自分の天性を發揮し本領を出すのである。之は決して仕事が出來る知能があるといふだけではない、か弱い乳呑兒一人でも偉い力を持ち、籠の中の小鳥一羽にも獨得のものがある。若し一族一村に過ぎて居れば、自分があせらないでも縣や國で認める。自分として努むべきは境遇に甘んじて忠實に正義を實行すること、上を見て羨まず横を向いて妬まず下に傲らず、過去を夢みたり未來を當にしたり、現在を怠るやうなことがあつてはならぬ。「この秋は雨か嵐か知らねども、今日のつとめの草を取るかな」といふ一首の意を、十分に悟つて日々を樂しく暮すのである。

及時當勉勵、歳月不待人

支那の陶淵明は高潔な士で田園を愛好した詩人である。左の一篇は深く人生の根柢に徹して居るが、普通には末の四句のみ有名のやうで、全篇を通じた眞意を解せぬのは殘念に堪えぬ。

人生無根蔕、飄如陌上塵、分散逐風轉、此已非常身、落地爲兄弟、何必骨肉親、
得歡當作樂、斗酒聚比隣、盛年不重來、一日難再晨、及時當勉勵、歳月不待人。

人生根蔕なく、飄として陌上の塵の如し、分散風を逐ひて轉ず、此れ已に常の身にあらず、地に落ちて兄弟となる、何ぞ必ずしも骨肉の親ならん、歡を得ては當に樂をなすべし、斗酒も比隣を聚む、盛年は重て來らず、一日再び晨なり難し、時に及びて當に勉勵すべく、歳月は人を待たず。

之は解しやうによりて色々に味ふことは出來ようが、人間本來の根據があるでなく何處に行かねばならぬか分らぬ事を覺悟し、事實生れて社會に共同生活をして居るからには、狹い範圍の區別を立てずに、少し許の酒でも近所の皆と一所に飲み、樂しく此の世を暮さねばならぬと思ひ、一日に朝は二度ないやうに、盛んな元氣の時は度々あるものでないから、やるべき時には大に勉强すべきだと實行を說いたのであらう。勉勵の二字を良く解して修養の資とすれば意味が深いと思ふ。

青年の修養論をやつて居れば限りがないが、農村の青年は覺悟と奮勵により、都市が人類生活の舞臺であると共に、農村も亦決して劣らぬ一大舞臺たることを思ひ、謂はゆる農民文明と云つて何も特別なものは有り得まいが、過去幾世紀間に發達した都市中心の文明に農村から起つたものを添加し、長は愈々發展せしめ弊は改むるやうせねばならぬ。鄙だと云つて從來は自ら卑下して居たが、今後は農村に打ち立てた哲學を振りかざし、確たる人生感をもつて進まねばならぬ。（一四、九月）

議事者、身在事外、宜悉利害之情。
任事者、身居事中、當忘利害之慮。

醉古堂劍掃

九　英國農村に於ける振興運動の一片

十九世紀に於ける世界の舞臺では、何と云つても英國が覇者として立つて居た。覇權を握るといふことは必ずしも羨むに足りないが、夫れだけの力量があり品位があれば、人類の文化にも多く貢献するわけである。所が、英國の農村は甚だ荒廢したと云はれ、内に憂國の叫も高く、外では覆れる前車かのやうに認められた。然し實際は斯國のみ左ほど悲觀すべきでなく、現に農事に關する學と術は、決して他に劣らぬ進歩を遂げて居るやうに思はれる。

此の衰退を極めたと云はるゝ英國の農村が、大戰後は更に生き回らんとする光景も見え、今や世の注意を牽いて居るので、その事情は色々のことを廣い範圍に亘つて思ひ合せねばならぬ。然し、昔から何事も民意を重んじて行ひ、多く有志の組織した團體が事を運ぶ國柄で、下から底力を持上げて謂はゆる自治で進む所である。「得意な英

國式會團」（The Favourite English Method of Societies）など云ふ通り、近時農村の元氣づいたことも一は全く此の共同協力の結果である。現に、斯國の農村振興に努力しつゝある會團は頗る多く、恩惠的な救助團は最早以前のやうに有力でないが、農術や經濟は元より、教育や宗教に關するもの、殊に趣味や生活に關する諸種の團體がある。その一種として「婦人團」や「農村クラブ」は最も新しく、その活動は將來大に期待されてをるので、茲に其の成立の大概を紹介するのも全く無用ではあるまい。

婦人團

婦人團（Women's Institutes）は、北米英領カナダで相當な成績を擧げ聞えたもので、その名稱と大體のやり方を戰時中に英本國で採用し、巧に事情に適應した指導をやり、今日に至る急激な發達を遂げたのである。

初め大戰勃發して俄に多數の壯丁を出陣せしむることゝなつたが、左なきだに人の少い農村は忽ち勞力の缺乏を感じ、特に食糧の供給を一に海外に仰いで居たことゝて、少しなりとも國內生產を圖らねばならぬ次第、婦人をして男子に代つて農事に從はしめようとしたのである。一九一五年「農業組織會」（The Agricultural Organization Society）＝我が產業組合中央會に相當するもの＝の世話で出來たが、一七年に至り其の奬勵は直接農務省の手に移り系統的となつて全國の聯合會（The National Federation of W.I.）を組織し、省內の婦人部と協力することゝなつた。當時は皆が愛國心に燃えて居た折とて、火藥砲彈までも女の手で立派に製出した有樣で、都市から特に移つて圃場の荒仕事をする婦人もあつたのである。

斯くて一度系統をつけて組織された婦人團は、平和克復して後は多くの作業を男子の手に返したが、村で擔任すべき仕事は別に澤山あるのだから、一層盛んに發展するに至り、一九二二年六月の現在では團數二千四百に達し、會員十四萬を算するに至つた。一時は折角歸村した壯丁に業務を渡さぬといふやうな非難が或一面にはあつたが、大概は婦女としての本領に立ち戻り、男子と共同して、活動することになつたのであ

る。

その趣旨は農村生活の改善向上にあつて、凡そ次のやうな業を目的として居る。

（一）家庭經濟の研究

（二）教養、社交及び地方的活動の中樞となること

（三）地方產業謂はゆる副業＝及び家庭手藝の奬勵

（四）協同組合の發達を圖ること

（五）農業趣味の向上普及

等を期して色々に努力する。少くとも月一回は集會して＝毎週開くのが中々多い＝必ず何か効利に資し、また修養の助としようと企てゝ居る。外に定期の講習會を催して家事、衛生、園藝、手藝などは元より、文學、歷史、經濟、社會等に就て學習し、音樂を練習し、演劇を稽古することもある。

何處でも年中行事の一として、會員の生產物や製作品の展覽會を開き、各地の農業共進會＝英國の各地に大小數多く盛んなものである＝などには特に出品し、また賣店を設けたりして一廉の地位を占めて居る。その盛んなものは常設の賣店を都市に設けて、少からぬ收得を擧げるに至つたのもある。一九二四年ロンドンのヴクトリヤ及びアルバート博物館＝音に聞えた大博物館の一部をなすもの、此の種の場所としては世界中での檜舞臺である＝で特に手藝製作品展覽會を開催した。初は田舍もので高の知れたことゝ思はれて居たが、蓋を開けて見ると大評判となり、流石の市人も驚嘆したのである。技術も練達して居たが、趣向が新しく上品で、粗朴な中に雅致あることを賞讃し、爭つて一二品を手に入れようとするのであつた。第二回は一九二七年十月に開催し、メリー內親王の行啓をも仰ぎ、また盛んなものであつた。

農村クラブ

一九一八年七月「農業クラブ」＝斯界に有名な古い團體である＝の集會の折、會長サア・ヘンリー・リューの發議で「農村生活の振興」といふのが問題となり、熱心な

討議の末に特に委員を擧げて研究することゝなつた。委員は幾度か會合して審議したが、農村にクラブを設立するが急務だと決し、之が組織を奬勵せんがため遂に「農村クラブ協會」(The Village Cluds' Association) をつくつたのである。既に存在して居るのは連絡をとり、未だ無い所には新設せんことを勸めたので、間もなく諸方に賛同者を得て漸く盛んになりつゝある。そのクラブの趣旨は

(一) 有ゆる社會的活動及び心身慰勞の中心となる

(二) 自給して他からの恩惠的物質の補助を受けぬ

(三) 地位や意見で區別をせず、村民は總て＝成るべく男女を合せて＝加入し得しむる

(四) 管理は總て會員又は全村民の選擧した委員が執り行ふ

といふので、當初に廣く配布した宣言は能く其の意味を明らかにしてをるが、「時勢の變遷で殊に大戰を經驗した今日、新しきものを要求して止まぬ狀態にあること」を述べ、更に進んで次のやうな一節もある。

「村團は、人類が社會的政治的組織をなした内、最も古い最も備つた單位である。その形は現に存在して居ながら、其の共存の精神は少なからず衰退した。然し、此の精神は復興し得るので＝既に其の事例も多少は見られる＝從來あつた要素を發展せしめて、將來の農村組織は進め得らるゝのである。新奇な他所の事物を輸入してゞはない。總ての計畫の基礎は共存精神にあるので、何事も上からでなく底から築き上げねばならぬ。社會は良かれ惡しかれ現代にまで發達し、二十世紀の村團では有らゆる關係が悉く自治だ、といふことが明瞭になつたのである。」

新しい數字を有たぬから現況を知らぬが、協會が成立して二年ばかりの間に加入した農村クラブの數は四百六十に達したのであつた。

振興委員會

斯くの如く、現代の農村は上に助力を仰ぐ許りが能でなく、萬事を自ら組織して行

くべき時となつたが、縣や國では元より經費や其の他の點に十分な協力と補助を致すのである。而して一村一邑だけの團體では微力であるから、是非とも他村の夫と合同連絡し、全國の聯合會を組織せねばならぬ。ただ、一村一邑が餘りに小さい場合には＝我が邦でも村の大小は甚だしい差がある、殊に英國では昔からの部落が其のまゝ一村をなすのが多く、隨分戸數人口の少いのもある＝それだけで團體を組織することも難しく、中央との連絡をとるのも厄介といふのがある。附近の幾箇村を合せて組合會をつくればよいが、隣合の部落は兎角に感情が面白からぬといふので、實際は自治的組合が容易ならぬことがあり、其の他にも色々の事情が自發をのみ期待されぬこと少くない。此等の困難に對しては州（County）＝或縣とも郡とも譯されてをる、國と町村との中間に立つ行政區劃である＝を本位とした連合の振興調査會を起すがよいので古い大きな大學で有名なオックスフォード州の實例は評判の高い一つである。

オ州農村委員會（The Oxfordshire Rural Community Committee）は一九二〇年に組織され、各種の團體を連合して成立したもので、存立二年間許りの間に方針を確立して好成績を擧げた。初め同地の農村に對して、全國農村クラブ協會や婦人團聯合會其の他が手をつけた所、その事情が到底各別な單獨な力では容易ならぬを悟り、各種の團體から代表者を出して共同研究をすることにした。それが遂に發達して聯合委員會となつたので、代表者を送つて共同した團體は、前記の婦人團とクラブ協會の外に「オ大學指導學級委員會」「基督教青年會」「勞役者教育協會」その他農會や產業組合などで、次で州教育部長を加へ間もなく農務部長を加へ、更に農村振興に關する州參事會委員をも引入れた。

先づ講話講習を計畫し圖書の供給を企て、講師その他の斡旋をなしたのであるが、此の州委員會が直接に自ら仕事をするのでなく、相談して手段を講じた後は夫々の團體か實施するので、圖書の配給など早く一九二一年十月に開始して、翌年三月には四十箇村に亘り、規則正しく巡廻文庫を送り得た。進んで音樂や演劇その他に就ても小

委員を擧げて調査したといふ次第、其の確に出來る手段方法を研究して、各村邑に奬勵し實施せしめ、州委員會は二年間餘りで存在を必要とせぬに至つたのである。

（一四、一〇、二五）

古郷や餅に搗きこむ春の雪
山水に米をつかせて晝ねかな
信濃では月と佛とおらが蕎麥　一茶
大根ひき大根で道を敎へけり

一〇　フエリツクス・ペコウ

（フランス師範敎育の恩人）

「敎育第一」とは云ひ古したことであるが、いつまでも朽ちぬ眞理たるに相違なく、而して敎育は人によるのであることも疑ない。今や師範學校の制度は改められ、實業補習學校敎員養成所が大に起された時に當り、他山の石としてフランス師範敎育の偉人ペコウを想ふのは決して無用であるまい。フロエーベルやペスタロヂは元より、ナトルプやデユエーの研究も大に爲さねばならぬが、英國ラグビーのトーマス・アーノルドなどをも深く注意せねばならぬと思ふ。ペコウの如きは、寡聞か我が邦で餘り云はれないやうだから、その態度主張を概述して一端を偲ぶことにしよう。

フランスで、舊來の制度を根本から改めて現代の敎育をつくり出したのは、ジユール・フエリー（Jules Ferry）の功績が尤も大きい。フエリーは、那翁三世の帝政の末

期に時の當局に反對して居た。七十年役には首都の重圍に陷つた時、選ばれてパリ市長在職中であつた。共和政となつてから代議院に入り、左黨領首の一人として活動し植民政策上にも功業大なりと云はれるが、一八七九年から八五年まで文部大臣となり畫策その宜しきを得たのである。

有名なコンドルセの教育案やエドガー・クイネーの思想に共鳴したので、遂にかの今日に至るまで評判な「フエリー法」を制定し、斯國現代の教育の根柢を築き上げたのである。之より先き、一八八〇年四月ソルボンヌで開かれた學會（ソシエテ、サヴン）の年會で、「單なる教授者でなく眞の教育家を養成せねばならぬ」ことを高唱し、「フロエベルやペスタロヂの教育も、教師と兒童との親和を條件としてのみ行はる」と說いた。一八八三年に教示した「小學教師に對する手紙」は、氏の思想の一面を能く窺はしむるものである。

フエリーの教育に關する功績を茲に說く餘裕はないが、能く適材を拔いて思ひ存分働かした。グスターヴ・グレアールを擧げてパリ大學に据えたのも英斷であるが、クエリックス・ペコウが擇ばれて女子高等師範學校を創設したのも、最も時代に應じた仕合であつた。

フランスで、近代に於ける教育上の大問題は宗教分離のことであつた。從來は舊教僧侶の手で爲されてゐたのを、宗派外の專門教師に移さんとしたので、先づ急を要する事は女教師の養成であつた。之にはフエリーがパウル・ベールなどゝ共に大に鬪ひ、幾千の小學校と地方に各一の女子師範學校を創設したので、此の八十の師範校の幹部職員を養成するため、女子の高等師範學校を必要としたのである。各地方の師範學校は四十名乃至六十名位を收容し、その多くは十六歳から二十歳までの田舍娘であつた。此等に三年間の教育を施して立派な教師を養成しようとするので、其の教師の責務は重大であつたが、高等師範校は其の重責ある教師の教師を養成する場所、その校長の

人選には一方ならず苦心したに相違ない。初めは之を宗教界哲學界に物色したやうだが、終に意外にもペコウが其の任に當つて就職することになつた。

ペコウ（Felix Pecaut）は一八二八年に生れて九八年に永逝した。若い時に新教の牧師として暮したが、一八五九年『イエスと良心』と題する一書＝後にレナンが、イエス傳で述べた結論と同じやうなもので大に物議を釀した＝を公にし、當時「自由新教主義」と云はれた宗教運動の發動者の一人であつた。かゝる次第で聖職に留まることも出來ず退いて居たのを、一八八〇年　フォントネー、オウ、ローズ（Fontenay-aux-Roses）に高等の女子師範校が設けらるゝに際し、選ばれて創業の任にあたり、引繼き校長となつて死に至るまで十八年間教養の任に當つたのである。「第三共和政の王門」はフォントネーにあるなどゝも云はれ、現代フランスに於ける初等の女子教育は、ペコウに負ふ所極めて多大なることに何等の疑はない。

ペコウがフェリーの重囑を引受けたのは、五十歳を越えてからのことで、長い間の思索で十分に熟したものがあり、深く自ら期する所はあつたのである。フランスの教育界に必要とするものは、宗派以外にあつて盲的傳統から解放され、而も熱誠な宗教的精神を有する教師であると考へた。「新教育の眞髄は、能く教師を生かすに足る個人的信念の深さと強さ」であると深く感じたのであつた。

フォントネーに集る生徒は、大抵は舊教徒で尼僧に教養されたものであつたが、此等をして單に學力を備へ教授法を知り廣い理解を有たしむるのみでなく、その人格の感化を他に及ぼすことが出來るものたらしめようと期したのである。ペコウの嘗て記した内に、「目に見え手に觸れ數で計り得ることのみを教授するのは情ない。……人道は永い間の引續く努力で成立したのであるから、靈魂の深い底にある理想まで行くのでなければならぬ。……エピクテータスやマルクス・アウレリウスやソクラテスやイエスの教を輕んずるやうでは、祖先の眞精神を忘却するのみでなく、現在のわれ等の

暮し行く世の理想を解することは出來ぬ」と云つて居る。

最初の卒業生の一人が後に回想して、「フォントネーは、云はゞ宗教的に開かれた」と云つてゐるが、校内の諸種の會合は美しい歌謠で開かれ清い合唱で閉づるのが習慣となつた。ペコウは講義といふよりも寧ろ對談的に、國家や社會や家庭のことなど、時には哲學や詩や高尚な題目に就いて、時には極めて平俗な日常事を述べ、多方面に亘つて時事問題を捉へて講話するのであつた。

或日、ソクラテスの死から妻を離別したことに言及し、アウガスチンに比較して其の「母と自分とは同じ生涯であつた」といふ言葉から、ギリシャの婦人を論じてバイブルの婦人と對照した。「女は概して空想的だと云はれるが、實際にやさしい婦人を望むなら先づ強くせねばならぬ。敬虔な婦人は、德を進めて後に初めて得られる。強い力と廣い理解とは女にも缺く可からざることで、親切、中庸、眞摯といふことが肝要である。ギリシャ婦人に比して、ヘブライ型は實際的で健康で、強く夢みないで活動する。」などゝ說くのであつた。學校の創設數ヶ月後のこと、かの有名な英のマシユーアーノルドは此の地を訪問して數日間滯在視察した。その報告の內に述べた一節は、能くペコウのやり方を察せしむるに足るから引用しよう。

「此處の小婦人は多く舊教徒で、日曜毎に教會に行つて禮拜し、平日は毎朝ペコウ校長から自由な形式ばらぬ講話をきくのであつた。學科目は教育といふのであらうが、ペコウの說く所は實に一種の道德宗教であつた。ロックやルソーやペスタロヂなどの碩哲を常に引用するので、現に親しく參觀した時は、僧正デウバンルー＝その著書『教育』は頁毎に謂はゆる燃える問題を提供して居る＝を題目としてゐたが、終始道德的、完全に宗教的に取扱はれ、その趣旨は新教でも舊教でもないのであつた。……ペコウはいつも此の如く自ら取扱つたが、全生徒にも斯くするやうに熱心に導くのであつた。此のことは教室の問答、生徒提出の論文などで能く分る。」

かういふ遣方で、生徒には如何に響いたかを見るには、卒業者自ら記してゐる所を聞くが最もよい、その一例を擧げよう。

「三年間在學の内、最後の一學年は殊に有益であつた。入學して先づ驚いたのは朝の授業で、ペコウ先生の話は、以前聽聞した多くの說敎よりも寧ろ宗敎的であつたことだ。初は分らぬことが少くなかつたが、進むに連れて漸次に明瞭となつたので、殊に自己の責任を感ずること及び自由に眞面目に眞理を追求せねばならぬといふことであつた。校長が能く繰回して云つたことは、「自分の支配を他人に任してはならぬ、之は個人にしろ團體にしろ、決して自分以外には誰にも許されぬ」といふ一句であつた。新しいことはないが、その度毎に力强い深い印象を受け、自覺を喚起さるゝのであつた。……良心を曲げるといふことは、如何なる辯解があつても、今は自己に最大不忠なものと感ぜらるゝやうになつた。……要するに、廣く高い理想の世を展開して示され、何となく全體で滿足と自信とを與へられたのである。之はいふまでもなく、卓越した先生方の賜で、智識もであつたが、道德的に生きた本校の雰圍氣の御蔭である。」

之は決して例外ではないので、大抵の生徒は斯の如く在學中に人生の煩悶＝殊に宗敎上の＝に際會し、之が解決を努めて信念を固め、確たる人生觀を得たのである。クイネー（コレヂ、ドウ、フランスの敎授であつたが、自由主義を唱へクーデターの時に追放された。共和政となつてから歸つて代議士ともなり、フエリーの敎政改良の原動力であつた人。）の次の語などを、常に生徒に聞かして深く考へさせ、その効果は少くなかつたやうだ。「愛したことは日毎に更に愛すべく、正義はいよ〳〵純正に、自由は益々美しく、言葉は神聖で、詩は眞實、自然は淸く誠なるを感ず。」

ペコウは、飽くまでも「各人が忠實＝先づ自己に忠實＝であることを根柢とした。」生徒や卒業者の言行に對しても輕々しく批評を下さず、容易に他を判斷しなかつた。

いつも「聞けよ、求めよ。求むるものゝ靈魂に、眞理は自ら表現するであらう」と云つた。彼の特性の内でも最も著しかつたことは、何事も良心に愬へしむる、自ら内に正しい魂をつくり、同じく努むるやう他をも感化する、之が最も宗教的であるといふ信念であつた。

色々の問題で知らぬ人からも能く相談を受けたが、いつも同じ心で同情し配慮した。ある學校長が、生徒の處置に困つて相談した時に「先づ消氣てはならぬ」と云つて、「困つたことだ。私自身があなたの地位にあつたとして別に良い案は出て來ない。退いて靜に考へるの外はない。手に餘るは生徒達、殊に其の最も甚だしい二三を、何とかして感動せしむるやう努むるだけだ。道心＝いくらかの道心を彼等も有つて居るので夫れは必ず我等の動かし得るものだ。信ぜよ、希望を失ふな。その内には彼等もあなたに價値のあるものとなるだらう」と說くのであつた。

又、ある卒業生に答へて「若い精神を、共通の事業即ち信任、勇氣、喜悅等に差向けるといふことは、確にあなた方の努めねばならぬことだ。お忘れではないだらうが、私がフォントネーの娘達に期待するのは、機嫌よき氣持と喜びに滿ちた活動を前任者の缺點に代へることである。……卒業生の内に後しだりし悄氣るものが多くなつたら折角新しい教育を受けて出ても、校長となり教師となつてから古い前任者を眞似て行くやうなら、此の國の將來は情ないものだ。そんなやうでは、私も早く老いぼれて了うだらう。」と書き送つた。

「道德は宗教的基礎に立ち、宗教的精神を有たねばならぬ、とはペコウの堅く信じた所である。……人の神性を信じて、常に攝理を深く反省した。授けられた地位で、その責務を完うする爲には、如何な卑しいものでも、その行爲が宇宙の天則に協はねばならぬと確信した。此の如きは、取も直さず宗教そのものである。ペコウは、幼時に受けた宗教を道德に代へたといふが、其の道德は竟に深遠な宗教となつたのである。

此の二つの強い要素を合致して、教師としての獨特と内に盡きぬ力とをつくり得たのである。」之はペコウを能く知つてゐた人の言葉である。

前述のアーノルドの報告から更に引用すれば、「此の師範學校ほど善い學校が、大陸に外にもあるであらうか、少くともこんな面白い所は未だ見なかつた。……此處の魂は六十歳に近いペコウ氏で、三十年許りも前に嘗て會つた事のある人だ。フランス共和政の教育方針は宗教排斥だと聞いてゐたが、フォントネーの地、ペコウその人を想ひ、殊に氏が文相から厚い信任を得てゐる事を想ふと、フランス政府の所爲は正當だと感ぜらるゝのである」といひ、「若しペコウのやうな人を、フランス國中の何れの師範學校にも有し得るなら、斯土の德育の基礎は確立することが出來ようと思ふが、現在では只フォントネーにのみ之を見たのであつた。眞に此の學校で施行されてゐることは凡て價値多いが、特に道德に關しては格段であると思ふ」と斷じたのである。

ペコウ自身の說いてをる所を聞けば「教育は正しい精神と確乎した品格をつくり、道理と正義に據つて働く、デモクラシーの自由な社會生活に適した男女を養成するのが目的である。此の精神で、理論や形式や方法や規則など＝道德的のも科學的のも教育的のも＝を問題とせねばならぬ。此の精神で、學校の有らゆることの組織を考へねばならぬ」。だから、「根本の意義通りに、眞摯誠實といふことが、苟くも青少年を養成せんとするものに取つての根基となるのだ。」

「學校は、生きた有機體で、その内に原動となるもの、それ自らの魂がなければならぬ。此の魂を据えるのが、校長たるものゝ役目である」。かくして生徒を導くには、言ふまでもなく感動せしむるので、それには鼓吹せねばならぬのである。「鼓吹とは、勿論他の心意を支配しようとするのではない。自己の判斷や意志を他に任せるやうにするのでは決してない。反之、思想と感情と個性とを激勵し、内に潛んでゐる力を喚起して、それが實現を高尙な目的に向はしむるのである。獨立して自覺せしむることで

ある」。古人の言を引いて、「他の爲に盡すといふことは他に愛せらるゝので、時に自分を卑めるものだ」とまで云つた。何の不思議もないことであるが、「感動は決して說法では得られぬ。言葉は最も有力な一だが、沈默がより大なる力であることもある。……言と行と共に、自分の心に情に道に、眞實であるといふのが根柢だ」といふなど、ペコウから聞いて更に一層の深みを覺える。

× × ×

一九一二年にパリの「初等教育會」で、飾りなき教師の生活狀態を記述した懸賞文を募集したことがあつた。數百篇の內から、茲に其の二三を揭げて見よう。ペコウには必ずしも關係はないが、フランスの農村教育の一端を伺ふに便利だらう。因に、フランスでは一八七九年以來、師範學校に農業を必修科として置いて居る。

（一）一八九九年十月、初めて故鄕を去る數千哩の寒村に赴任した。……教室は長い狹い低いのであつた。戶は能く閉ぢられぬ。兒童の卓は古い汚れたものであつた。けれども大に勇んでゐた……受持の兒童は八十五名で、暫くすると秋の收穫が濟むから、缺席中の何名かゞ登校するだらうとのことであつた。整理を考へて其の日は過ぎたが、校長の老尼が教室に來て、胸に十字を畫くと、兒童は皆聲を合せて祈禱文を讀むのであつた。……母校で校長から「忍耐して上手にやれ」と聞いたのを想ひ起し、責任の重大をツク〴〵感じたのである。……。

（二）……村長は、自分の家＝物置小屋といふ方が寧ろ適切＝でもあるやうに、能く學校に來ては教師を連れて行く。教師が何か用役に服して居る間は、兒童は教室で飛び廻つて暮すのだ。時によると、隣の里に行つて組合の負擔金を集めて來るのだ。半日は潰さなければならぬが、兒童は大喜びで野や山で自學自習をやるのだ。……ある百姓が、「自分の息も教師にしたいのだが役場の犬にするのかと思ふと厭になる」と云つた。……

（三）「小ザツパリした服裝をして小綺麗に暮し、良い教室＝冬は暖めてある、夏

は涼しい＝で生徒を相手に暮すのだ。日曜の外に毎週一日の休があり、冬と夏との休は呑氣なものだ。教師といふものは、人の上に立つて誠に結構なものだ」と村人の目には見えるらしい。

（四）　赴任した當座は困り切つた。村人の誰もが良く解して呉れなかつた。いつも偵察せられてゐた＝兒童にさへ其の役を勤めさした。牧師は殊につらく當つた。……けれども長い内に兒童は慕ひ來るやうになつた。母達が喜んで口をきくやうになつた。此の二つを得て、今では尙幾分の反感で攻擊される事があつても怖れない。……

（五）　教職二十年の經驗で、村人に深く同情してゐる。此の地は、自分の兒が生れたといふばかりでなく住民を能く知つた。その性質習慣を長所短所共に知つたから、永久に去りたくない。村人の言行が、今は私に厭でなく笑はれなくなつた。彼等はいつでも私を解し、私のいふことを聞いて呉れるのだ。

（六）　……各種の會團、各種相互扶助の組合、小圖書館、小博物館等を隨分設立した。……兒童や父兄を少しも怖れる事は要らぬ。今の私の力は彼等から湧き出されてゐるのだ。

（七）　……過去の十五年許りの間に、一萬三千八百餘の村人口が一萬足らずになつた。……古い卒業生の一人と共に生産を增した。共存團結心を呼び戻した。信用組合家畜保險組合を組織した。近年は一人も外に移住したものはない。

（八）　私の野心は兒童に記憶せられるといふことだ。卒業して幾年も經てから、學校時代は樂しかつた、あの先生から敎へられたと想ひ起させたいのだ。……平凡な生活は忘れられる、……難問に遭つて打ち勝ち得た時に、之もあの時の苦勞の御蔭だと感ずるものだ。（大正一四、四）

——終——

天命之謂性。率性之謂道。修道之謂教。道也者不可須臾離也。可離非道也。……喜怒哀樂之未發謂之中。發而皆中節謂之和。中也者天下之大本也。和也者天下之達道也。致中和。天地位焉。萬物育焉。

唯天下至誠。爲能盡其性。能盡其性則能盡人之性。能盡人之性則盡物之性。能盡物之性則可以贊天地之化育。可以贊天地之化育則可以與天地參矣。

中庸

種をまきけるに、あるものは畑の路におち、空の鳥きたりて之を食へり。あるものは瘦地におちしが、土深からねば直にはえいでたれど、日出でゝやかれ根なきがゆゑに枯れたり。あるものは棘の中におち、いばら育ちて之をふさぎければ實を結ばざりき。あるものは沃土におちしかば、苗はびこりて實を結び、あるは三十倍あるは六十倍あるは百倍せり。

イエス・キリスト

農業教育
奥付

著作者　小出滿二
發行者　永田與三郎　大阪市南區内安堂寺町一丁目二八
製版者　谷口松市　大阪市東區淸水谷西之町三一四
發行所　東京市神田區表神保町二番地　大阪市南區内安堂寺町一丁目二八　奈良市南半田西町十三番地　東洋圖書株式合資會社　大阪市南區内安堂寺町一丁目二八・振替大阪三九五五六番
大賣捌所（直接註文一手取扱）（東京）南海書院・文修堂（名古屋）川瀨・星野（久留米）菊竹　（大阪）寶文館・盛文館（京都）京都書籍博省堂（佐賀）大坪　（奈良）木原文進堂（熊本）長崎

著作權所有

昭和三年四月十五日印刷
昭和三年四月二十日發行

【定價　金貳圓五拾錢】

印刷所・東洋圖書株式合資會社印刷部
製本所・瀧本製本所

東洋圖書の教育書

教育學術基礎學 參考書

最新刊

兒童學原論

東洋大學教授 關寛之先生著

定價四・八〇 送料〇・二〇

□本書は我國兒童心理學の泰斗で現に文部省顧問である關先生が兒童の身體及精神の兩方面及其の發達の實際と機能とを詳細に研究されたる一大良書で我國には勿論歐米にも求め難い現代教育界の一權威書である。

十版

學習諸問題の解決

奈良女高師教授兼附屬小學主事 木下竹次先生著

定價二・八〇 送料〇・一六

□本書は天下の教育界を風靡したる學習法創始者木下先生が學習法の根本並に其の實際上の諸問題につき一々詳解されたる良書

□從つて實際學習上の難問題につき具體例により說明せる點に於て學習原論以上の名著

五版

教授新論

奈良女高師校長 槇山榮次先生著

定價三・〇〇 送料〇・一六

□我が國教育界の重鎭たる先生の著書、論說は現代實際教育の羅針盤である。

□本書は先生が學習法新教授法につき(1)根源を明かにし(2)之に劃切なる批判と(3)實際的指針とを加へられたる名著である。

十版

學習心理と學習樣式

九州帝大文科教授 松濤泰巖先生著

定價二・五〇 送料〇・一六

□學習主義の根柢をなす學習心理を詳說し、教師中心より兒童中心への新思潮の基調を闡明された邦文唯一の良書である。

□兒童心理上より學習樣式を分說し、學習の新指導法をも示されてゐる。

八版

表現と鑑賞

奈良女高師教授 岩城準太郎先生著

定價二・五〇 送料〇・一六

□創作と批評、表現と鑑賞との二者を一に渾融して說いた文學の新作品觀である。

□現代文學の權威たる先生が永年練られた新文章論である。

□現代文學の研究者にとつては此上なき良參考書である。

東京・大阪 東洋圖書株式會資合社 發兌
（直接註文一手取扱）大阪市南區・內安堂寺町一丁目●振替口座大阪三九五五六番

教育書は東洋圖書

五版
東京帝大助教授 入澤宗壽先生著
教育者と教育精神
定價二・五〇 送料〇・一六

□教育最終の問題は教師其の人格にあることは千古不變の教育の根本問題である。
□この第一義諦につき斯界の權威入澤先生が現代教育者の進むべき本道につき其の蘊蓄を傾倒せられたる唯一の良書である。

三版
野村教育研究所長 大伴茂先生著
教育科學の諸問題
測定・實驗・診斷
定價三・八〇 送料〇・二〇

□行詰れる現代の獨斷・主觀の教育に置換へらるべき教育科學＝測定・實驗・診斷につき詳述せる本邦唯一の良書で將に直面せる教育界の新目標を示すに教育科學の各分野に亘り日本の實際事例により例證してゐる

三版
立正大學教授 千葉命吉先生著
「問題」の教育心理學的考察
定價三・八〇 送料〇・二〇

□往年獨創學の樹立を叫び傳統の教育界に警鐘を打たれた先生は歐米留學に五年其の根本的研究を遂げて歸朝された。
□「問題」は獨創學の中心點であり自發學習の出發點である。

五版
奈良女高師教授 森川正雄先生著
幼稚園の理論及實際
定價三・〇〇 送料〇・一八

□奈良女高師の勅任教授兼附屬幼稚園主事たる先生が、幼稚園の理論及實際を說かれた唯一の書物である。
□內外の實際、古今の理論委しくこの一卷に收められてゐる
□保姆檢定唯一最良の參考書。

最新刊
奈良女高師教授 森川正雄先生著
兼附屬幼稚園主事
保姆教育學
定價三・五〇 送料〇・一六

□幼稚園令施行規則第十一條保姆檢定試驗規則による教育・兒童心理・教授法・管理法の大要を全部網羅せる保姆檢定用唯一の良書
□**教育は**本書**保育**は「幼稚園の理論及實際」に依る。共に保姆須要の二大科目の良參考書。

最新刊
奈良女高師 幼稚園主事 森川正雄先生著
託兒所育兒法
定價三・〇〇 送料〇・一三

□保姆は幼稚園施行規則に基き其の心得が必要で、其の資格試驗の必須科目である。本書はその唯一の參考書である。
□**附錄**
四産前産後の訓令、**一**工場法、**二**健康保險法、**三**種痘法**五六七**其他諸規定諸表

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
（直接註文—手取扱）大阪市南區・內安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

東洋圖書の教育書

最新刊
大阪家なき幼稚園長 大每顧問 橋詰せみ郎先生著
家なき幼稚園の主張と實際
定價二・五〇 送料〇・一六

□吾が橋詰先生の御創案になる「家なき幼稚園」は世界的大事業として彼のパーカースト女史をして驚嘆せしめた。
□本書は創設以來先生の御體驗に基く主張と現に經營される七幼稚園の實際とを詳述。

三版
關西學院教授 砂川寛榮先生著
進步的教育の諸問題
定價二・五〇 送料〇・一六

□本書は教育の社會的方面の强調學校家庭の連絡進み行く教育の實相と之が對策を詳述せる必讀書である。
□讀方に算術にテストに準備教育に幾多の新研究を詳說せる必讀の良參考書。

最新刊
廣島高師教授 文學博士 久保良英先生序
奈良女高師教授 本庄精次先生序 守田保先生著
實際的個性調査法
定價二・八〇 送料〇・一六

□著者が實際教育家として苦節十年內外の學理を究め日々教壇に立ちながら實際的個性調査を試みこれを體系立てたのが本書である。□**本書の特色**は(一)實際的である事。(二)內外同類書の要點を知り得る事。

最新刊
文部省社會教育課編
映畫教育
定價二・〇〇 送料〇・一〇

□兒童の見たがる活動寫眞は止めるよりも之を活用し善導することこそ現代の眞教育である
□本書は映畫を活用、實施監督すべき教育者、社會教育家警察官等の爲に我國に於ける現代斯界の各權威の執筆になる唯一の名著。

九版
奈良女高師前教官 福岡縣視學 花田甚五郎先生著
制度の活用と學校經營
定價二・五〇 送料〇・一六

□昭和新時代の要求に適應せる學級經營書眞に兒童を善導し國家の要求せる國民教育の達成を目標とする學校經營の實際を詳說す
□單に學校教育のみならず社會教育等地方の實際を詳說せる經營上の最良書である。

學校學級 經營參考書

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
（直接註文—手取扱）大阪市南區・內安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

教育書は東洋圖書

三版
富山師範附屬小學校著
ホーム組織の學校經營
定價二・八〇 送料〇・一六

□澤柳先生の國民教育奬勵會より其功績を表彰され多額の奬勵金を得られたる世界の初等教育會に誇るべき眞面目の研究書である。□實績を收めつゝある實際的記錄で昭和新時代に即したる眞の學校經營法である。

十三版
東京女高師教授兼主事 北澤種一先生著
學級經營原論
定價二・八〇 送料〇・一六

□學級經營は實際教育の根本で成敗一つに此處に懸つて存するや論ずるまでもない。□新學級經營の實際的方法を說くに其の心理的・教育的・社會的根本原理を明かにし而も古きを顧みず新しきに結べる良書である。

四十六版
奈良女高師訓導 清水甚吾先生著
學習法實施と各學年の學級經營
定價二・八〇 送料〇・一六

□二十年の訓導生活中學級王國の建設を以て其の信條とされた著者が、更に最近學習法の創始者としての體驗に基き最新の學級經營の理論及び實際を詳述された一大力作で將に五十版に垂んとする大好評の名著。

最新刊
奈良女高師訓導 清水甚吾先生著
續學習法實施と各學年の學級經營
定價二・八〇 送料〇・一六

□正篇に盡くし得ざりし點を悉く本書に收む。**一**學級經營と新時代の修身訓練問題**二**學級經營と主要教科の指導方法**三**尋常低學年の學級經營**四**尋常高學年の學級經營**五**學級經營の諸問題の解決。**六**學級經營法。

十二版
奈良女高師訓導 山路兵一先生著
遊びの善導 尋一の學級經營
定價二・五〇 送料〇・一六

□學校教育の効率のあがると否とは一つに學級經營の如何に關ること言をまたぬ。□本書は低學年經營に多年の體驗と獨自の手腕とを有せられる先生が兒童心身の發達を基調とし環境の利用善化に努力せられたる唯一の良參考書である。

九版
奈良女高師訓導 山路兵一先生著
遊びの善導 尋二の學級經營
定價二・五〇 送料〇・一六

□遊びの善導は學校の家庭化であり家庭生活の繼續であり子供達の生長の繼續である。從來の岸に馬を乘りかけた樣な激變生活の苦しみに代ふるに坦々の水平路を辿らしむるものである。

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
（直接註文—手取扱）大阪市南區・内安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

東洋圖書の教育書

五版
奈良女高師訓導 山路兵一先生著
遊びより仕事への 尋三の學級經營
定價二・五〇 送料〇・一六

□著者は尊き體驗に基き各學年に亘つてその學級經營を完成された。□尋三四は「**遊びより仕事へ**」入る學年である本書は兎角等閑にし勝ちな此の中學年の學級經營を模範的に解決した良書である。□健全なる社會の基礎をなすものは中產階級である。依て具眼の政治家は健全なる中產階級の振興に全力を注ぐと。尋三四は又實に學校内に於ける中產階級である。

最新刊
奈良女高師訓導 山路兵一先生著
遊びより仕事への 尋四の學級經營
定價二・五〇 送料〇・一六

五版
奈良女高師訓導 山路兵一先生著
生活指導 尋五の學級經營
定價二・五〇 送料〇・一六

□尋五六は學年系統線上の高學年部である。最早象牙の塔の中の子供ではない。正に實**社會の實生活**を唯一の生活場學習題材として生長しようとする子供たちである。□又其の一擧手一投足は凡てそれ以下の子供たちに何ものかの響をもち全校兒の學風を左右する彼等である。此の學年をよりよく指導することはいはゆる義務教育を完成する所以で本書は其の實際記錄集である。

最新刊
奈良女高師訓導 山路兵一先生著
生活指導 尋六の學級經營
定價二・五〇 送料〇・一六

□學習法を地方の一學校へ理想的に實施して我國未聞の好成績を收めた實際實績である。□現制度の下に實施し得る穩健着實な新教育法である。□**畏くも今上陛下の天寶を賜ふ。**

十版
奈良女高師前教官 福井三國小學校長 三好得惠先生著
自發教育案と其の實現
定價三・五〇 送料〇・一八

七版
岡崎師範附屬小學校著
體驗 生活深化の眞教育
定價三・二〇 送料〇・一六

□天下の優良附屬たる岡崎師範附屬小學校が**新を**はず**奇に走らず努力又努力血と汗と熱と涙とを以て築き上げられたのが本書である。**□**言々句々苦しき經驗と尊き體驗との結晶。**

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
（直接註文—手取扱）大阪市南區・内安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

教育書は東洋圖書

四版
奈良女高師訓導 鶴居滋一先生著
合科學習原論
定價四・五〇 送料〇・二〇
□奈良女高師に於ける合科學習の先驅者たる先生が新を街ふことなく、愼重に愼重を重ねて研究さるゝこと茲に數ケ年、初めて筆を執られたる力作で尋常一、二、三年程度の新教育集、新學級經營法の一權威である。

五版
東京兒童の村幹事 志垣寛先生著
新學校の實際と其の根據
定價二・八〇 送料〇・一六
□新學校の行はれる新しき學校とは何か。其意義、組織、校舎、教師、兒童、學級、材料、方法等を明かにし、實に歐米に於ける新學校並に我國に於ける新學校の實際と其の根據を教育的哲學的見地より詳論されてゐる。

最新刊
文部省社會教育課長 小尾範治先生序
奈良縣高田高等女學校長 井上嘉三郎先生著
社會教育 一日女學校
定價二・〇〇 送料〇・三
□本書は處女教育女子青年教育の實際に成功されたる社會教育方法の實際記錄である。
□費用尠く特別の勞力なくして新教育思潮に添つた簡易有効の教育法として推賞さる。
□小學校・實業學校に利用すれば甚だ妙也。

最新刊
文部省實業補習教育主事 岡篤郎先生著
産業教化地方改善 補習學校經營原論
定價四・五〇 送料〇・一八
□著者は文部當局者たる以外、又補習學校研究のため特に洋行し、又嘗て其の實際經營に當り成功されたる權威者である。
□實業補習教育は愈内容充實期に入り其の實際經營方案は之が成否の分るゝ重要問題也

最新刊
文部省實業補習教育主事 岡篤郎先生著
産業教化地方改善 補習學校經營の實際
定價三・〇〇 送料〇・一八
□既刊「補習學校經營原論」に基きその實際篇として具體的實例の經營方案を詳述さる。
□兩書、相俟つて補習學校經營の双璧をなすもの、地方改善産業教化の任にある者の必讀すべき良著である。

最新刊
文部省社會教育課長 小尾範治先生推奬序文
岡崎市梅園青年訓練所主事 石田利作先生著
青年訓練所の經營
定價二・五〇 送料〇・一六
□畏くも侍從御派遣の榮を得たる名譽ある模範訓練所の實際詳述さる。□内容充實、記錄する所悉く青年訓練所經營に成功したる眞の體驗記錄。□著者は奈良女高師前訓導として普通教育界知名の士。

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文—手取扱)大阪市南區•内安堂寺町一丁目•振替口座大阪三九五五六番

東洋圖書の教育書

各科教育法 學習指導法 參考書

十二版
奈良女高師訓導 野中吉光先生著
修身學習の根本と其の實際
定價二・五〇 送料〇・一六
□根柢を近代の倫理に置き生活本位兒童本位に實生活に觸れた修身學習の大記錄である。
□私の修身教授は傳統的な教授法から得たものでない。實際修身教育の惱みに惱んだ末に築き上げた方法であるとは先生の言。

最新刊
廣島高師訓導 堀之内恒夫先生著
新高等小學修身教育書
定價各二・五〇 送料各〇・一六
高一用 高二用
□新に修正された高等小學校修身書の實際取扱の懇切なる手引としての力作。
□一般向兒童用書を主としての之に女生用を併説して男女兩用の使用に供す。□系統的解説並に體驗的の説明懇切、引例豐富を極む

八版
奈良女高師訓導 秋田喜三郎先生著
國語讀本の縱斷的研究
定價二・五〇 送料〇・一六
□國語讀本全十二卷を縱斷的に研究し、其精神、其美點其長所を鑑賞的に研究されたる讀方學習指導者に必須の書である。
□國語讀方學習指導の根本は讀本研究にあるとの見界から形式内容共丹念に研究されてゐる

八版
奈良女高師訓導 河野伊三郎先生著
國語學習上の諸問題と其の解答
定價二・八〇 送料〇・一六
□凡そ國語學習上の問題となるべきあらゆる問題について多年研究された二千有餘の問題を精選して一書とされた稀に見る實際中の實際篇である。下・中・上學年、形式、内容取扱上、各方面に亘つた具體事例集である

八版
奈良女高師訓導 山路兵一先生著
讀方學習活動
定價二・五〇 送料〇・一六
□先生が讀本中の各種文章を指導された實際を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもので、兒童學習力伸展の有樣は、手に取るが如く明かにされてゐる。文章は面白く不知不識の間に讀方學習指導の眞髓を掴み得る。

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文—手取扱)大阪市南區•内安堂寺町一丁目•振替口座大阪三九五五六番

教育書は東洋圖書

最新刊

尋一國語教育精義

奈良女高師訓導 岩瀬六郎先生著

細目 定價 三・〇〇 送料 〇・一六

□學習法の眞精神に則つて編まれた詳細なる國語の細目を中心とせる秩序整然たる大著述

□內容は聽方話方讀方綴方書方の全部に亘る教科書の各課の取扱は勿論、補充文・參考書迄廣く集めて一々叮嚀な解說を附す。

五版

國語讀本指導精案

奈良女高師訓導 河野伊三郎先生著

學習本位教材觀照

定價 送料

卷一	一・〇〇	卷二	一・三〇
	〇・〇八		〇・〇八
卷三	一・三〇	卷四	一・六〇
	〇・〇八		〇・〇三
卷五	一・六〇	卷六	一・八〇
	〇・〇三		〇・〇三
卷七	一・八〇	卷八	一・八〇
	〇・〇三		〇・〇三
卷九	一・九〇	卷十	二・〇〇
	〇・一六		〇・一六
卷十一	二・〇〇	卷十二	二・四〇
	〇・一六		〇・一六

□本書は我が初等國語教育の權威者たる河野先生が造詣深き文章觀を基調とし多年研究をつまれたる實際の尊き記錄で世間あり觸れたる日案的時間配當的のものとは全然趣を異にするものである。

□本書によりてこそ初めて時代に順應せる國語教育の目的は達せらる。

□文字文章の乾燥無味なる傳統より脫し强烈な國民精神を培ひ豊潤な民族的情緒を養ひ國語教育を眞人教育にまで引上げ得るのが本書の使命である。

最新刊

聽方教育の原理と實際

成城小學校訓導 奥野庄太郎先生著

定價 二・五〇 送料 〇・一六

□聽方科の開祖として國民教育奬勵會より表彰され多額の奬勵金を得られたる著者が多年の研究と體驗とによりて成る權威の著述

□聽方教授の材料方法共にその實際例頗る多く、眞に實地指導者の最良參考書である。

五版

綴方の自由教育

奈良女高師訓導 山路兵一先生著

定價 三・〇〇 送料 〇・一六

□分解分析を旨とせず、生活其のものに即して建設されたる新しき綴り方學習指導法で、學習法の原則の上に築かれた自由綴方法である。□著者多年の思索を、兒童の伸びて行く事實を借りて巧に表現されてゐる。

三版

硬毛兩樣書方の指導書

奈良女高師教授 大塚治六先生著

定價 一・四〇 送料 〇・〇八

□文部省の根本方針に基き、硬毛兩樣共に文字は形を主とし、實用を主眼として其の書法の詳細に亘り述べてある。

□材料は書方手本の全部に就て硬毛兩樣の說明指導を詳記せる外補充材料を加へてゐる

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文一手取扱)大阪市南區・內安堂寺町一丁目・振替穴阪三九五五六番

東洋圖書の教育書

重版

鉛筆書方練習帖

奈良女師訓導 岡本清德先生編

尋一用 〇・一三 尋二用 〇・一三 (見本進呈)

□特徵 (1)安價 (2)頁數多い (3)繪表紙 (4)基本・練習・應用文字とを別つ (5)手本文字、渡書文字を青色となす (6)隨意練習、視寫、聽寫、自運の欄を置く (7)書方手本、國語讀本と連絡を取つた優良書である。

八版

最新 算術學習指導法

奈良女高師訓導 塚本清先生著

定價 四・八〇 送料 〇・二〇

□メートル法、實驗實測、空間教授の取扱、代數的取扱等の新問題を初め算術心理など他書に求め得ない、新方面まで開拓されてゐる

□著者は頭腦明晰、博學を以て聞え徹底的意見と、指導方法の妙とを有する新人である

最新刊

算術教育新論

東京高師教授 佐藤良一郎先生著

定價 二・五〇 送料 〇・一六

□算術教育界の權威清水先生の獨創的體驗的根本原理より實際に及ぼせるものは少い。

□各學年の教材配當はアメリカ、イギリス、フランス、ドイツの例を取り、算術遊戲の諸種を引例し、メンタルテストを詳解せる等は本書の特色である。

□算術に關する參考書多しと雖も本書の如く

六版

於ける上學年に算術自發學習發展の實際

奈良女高師訓導 清水甚吾先生著

定價 三・二〇 送料 〇・二〇

□研究で前後八ケ年心血傾注の結晶である

□就中上學年尋四以上の指導法・學習發展の實際を示されその自發學習指導に解決を與へ更に下學年との連絡を詳述された良書

四版

珠算教授

東京女高師訓導 岩下吉衞先生著

實驗

定價 二・八〇 送料 〇・一六

□日用算としての珠算が實用的効率の大なることは世界的誇るべきものである。

□本書は多年珠算の研究と教授とに獨特の地歩を有せられる先生が、最近適切な獨創的一新體系を立てられたものである。

九版

國史學習の根本及其の實際

奈良女高師教諭 栫井弘先生著

定價 二・五〇 送料 〇・一六

□學習主義に基き多年研究された體驗より歸納された、獨特の國史學習法を詳述されてゐる。□講演式、注入式舊教授法を捨てゝ創作的學習法を樹立されて飽に刻々効を收めつゝある實際的記錄である。

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文一手取扱)大阪市南區・內安堂寺町一丁目・振替穴阪三九五五六番

教育書は東洋圖書

七版
奈良女高師教諭 栫井弘先生著
國史學習上の諸問題と其の解答
定價二・八〇 送料〇・一六
□本書は前著國史學習の根本及其實際をより一層具體事例を附し名著よく徹底する爲尋常高等四ケ年に亘る國史の資料學習指導の趨歸を明かにし國民精神の涵養民族的純情の陶冶を力説された良參考書である。

八版
奈良女高師訓導 清水甚吾先生著
地理學習指導法精義
定價二・八〇 送料〇・一六
□著者が福岡師範以來二十年の間專ら研究されたる地理教授を經として最近研究された學習法を緯として蓄積を披瀝されたる名著である。□地理學上のあらゆる重要問題は悉く解決されてゐる。

三版
東京女高師訓導 齋藤英夫先生著
新地理書學習指導精說
定價各三・〇〇 送料各〇・一八
尋五・尋六
□本書は地理學習の指導と材料の精說との兩方面に亘り詳說せられた最新最良書である。□本書は文部、內務、農林、商工等の各省につき斬新にして得難き材料を蒐集詳說して新時代の地理指導につき活資料を提供す。

五版
奈良女高師教授教諭訓導 神戸伊三郎先生著
理科學習原論
定價四・五〇 送料〇・二〇
□本書は先生が多年實際に子供を指導せられた體驗の結晶で多くの指導例をあげ加ふるに自然科學の本質を明かにし理科學習の寶庫を開かれたものである。□先生は本書に蘊蓄と研究の總てを注がれた

八版
奈良女高師訓導 大浦茂樹先生著
理科學習指導實錄
定價三・五〇 送料〇・一八
□學習主義に基き理論と實際を巧に取合せ、□指導方案が各材料毎に詳述してある。□實際の立場から理論を顧み、理論に基き理論を細微な點まで明かにしてある。□實際を眺めた穩堅着實の實際的著書である。□教材を精說し(1)選題の要旨(2)學習の主眼點(3)指導法(4)學習用具(5)教材の內容(6)指導法の月並のみを力説された良書である。□各課に亘り實際に觸れたる點

四版
奈良女高師教授教諭訓導 神戸伊三郎先生著 定價尋四・五〇 尋五・五〇
理科學習各論 尋四 尋五
送料各册〇・二四
□尋常高等四年に亘る國史の資料學習指導及び學習發展の狀を詳述せる斯界の名著。

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文一手取扱)大阪市南區•內安堂寺町一丁目•振替口座大阪三九五五六番

東洋圖書の教育書

五版
東京高師訓導 青柳善吾先生著
音樂教育
定價二・五〇 送料〇・一六
□本書は先生の音樂教育に關する力作で著書數き先生の唱歌教授法精義である。□先生は多年御研究の唱歌教授並に音樂教育に關するあらゆる御意見は悉く本書に收められて本邦音樂の權威書である。

二十五版
奈良女高師教諭 幾尾純先生著
私の唱歌教授
定價二・五〇 送料〇・一六
□我國唱歌教授界の第一人者を以て誰もが許す幾尾先生の唯一無二の力作は卽ち本書である。□御創始の本譜教授法、獨特のタクト法、新しき作曲指導法等悉く寫眞、凸版を以て説明されてゐる。

五版
奈良女高師教諭 幾尾純先生編
小學唱歌の指導書
尋二用 尋用
定價各一・八〇 送料各〇・一三
□本書は先生が二十餘回生徒に教へられた事實の記錄に洗練又洗練を加へられたエキスである。□理論の方面はその學習上の諸問題を實際的取扱中に巧に具體化して織り込まれてゐる

重々版
奈良女高師教諭 幾尾純先生編
本譜練習
幾尾式カード
定價〇・四五 送料〇・〇五
□一名本譜ヨメール□記譜力養成の良カード□幾尾式唱歌教授の秘訣は、本書であつて、□各唱歌教授成功への鍵である。小學校に御採用多し。

重々版
奈良女高師教諭 幾尾純先生編
幾尾式カード
教師用
定價〇・六〇 送料〇・〇六
□本書は第一に兒童作曲法を載せて平易に其の手解きをされてゐる。□第二に先生の教へ子の手になる兒童作曲模範集を載せてある。□第三に「本譜練習幾尾式カード」を全部本譜を以て參考に載せてある。

四版
奈良女高師訓導 川口英明先生著
體育學習の實際
定價二・六〇 送料〇・二六
□舊來の體操を體育と改稱して其の範圍を擴め受動的の教授を發動的の學習となし、一齊的劃一的のものなりを個別的に兒童本位に迄進めて獨自學習を新設した、學習主義に基く體育學習の實際の新生面である。

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文一手取扱)大阪市南區•內安堂寺町一丁目•振替口座大阪三九五五六番

教育書は東洋圖書

七版 東京女高師訓導 寺谷朝藏先生著 改正要目準據 體操遊戯
小學校指導書
定價二・八〇 送料〇・一六

□改正要目に準據し各學年別に體操、教練、遊戯、競技の全部に亘り生理的、解剖的、心理的解説と其の指導法とを詳述せる良書。
□體操については号令の掛け方より運動量の多少、遊戯については其の解説を詳述。

五版 東京市視學 藤本光清先生編 改正要目準據
小學校體操教程
定價一・二〇 送料〇・〇八

□教程は體操科死活の鍵、從つて本書は改正要目活用の寶典である。
□本書は各學年十一種計八十八種の教程を其の運動量を考量し編述せるものである。
□實際指導に至便な携帶用の此上なき良書

七版 奈良女高師助教授 内田トハ 御笹政重先生共著
教育ダンス
定價三・〇〇 送料〇・一八

□尋一から高女まで五十七種、寫眞凸版百餘を挿入して懇切に説明し樂譜三十餘種を添へてある。
□種類の多いダンスの中で獨りこの教育ダンスのみが學校に取入れられ且生涯實行さるべきものである。

三版 奈良女高師教授 新井つた女史著
體育としての薙刀
定價三・五〇 送料〇・一六

□本書は總ての方面に亘り綿密なる説明と多くの圖解とを用ひて專ら學習者の理解に便したる最高最良の參考書である。
□最も困難なる形の説明に百五十有餘の寫眞を用ひ誰人にも其の要領を會得し得る樣にされてゐる。
□畏も皇后陛下の台覽を賜ひたる鏡心流薙刀の開祖が其眞髓を記錄されたものである。

四版 奈良女高師裁縫研究會著
裁縫精義（單衣會）
定價三・五〇 送料〇・一六

□本書には又大幅物裁方を多く加へ且用布節約の爲に經濟裁をも記載してある。

最新刊 東京女高師訓導 松尾まきを先生著
裁縫學習の根本と其の實際
定價三・五〇 送料〇・一六

□悉く著者の體驗的記錄になる新裁縫教育法の實際的指針で新らしき學習指導の原理及方法と兒童心理に適合したる教材配列とは他にその比を見ず。
□作業主義に基き圖解を本位とし繪多し。

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
（直接註文一手取扱）大阪市南區・内安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

東洋圖書の教育書

五版 大阪府立清水谷高女 結城親學先生著 可愛らしき
男女子供服の縫方
定價一・八〇 送料〇・一二

□和服裁縫の力を利用し
□自分で裁てる
□獨りで縫へる
□手縫で出來る樣、親切に説明した良參考書！
□色刷全姿圖二十四、説明圖壹百有餘。洋服裁縫教授の參考書！

十版 大阪府立清水谷高女 結城親學先生著 詳解
メートル裁縫
定價〇・三五 送料〇・〇五

□和服裁縫に必要なメートル法の寸法を悉く集め本裁四ツ身から一ツ身羽織、袴、襦袢等の裁ち方を悉く圖を以て示し、誰でもメートルの寸法で裁縫が出來る樣に詳説した良書！
□小學校女學校の裁縫科生徒用に良し

十版 奈良女高師教諭兼訓導 横井曹一先生著
手工學習原論と新設備
定價二・八〇 送料〇・一六

□手工教育の全體に亘り其の本質を明かにし
□新時代の新手工を詳述した良書である。
□手工の再興時代に際し新手工の指導細目、指導法を具體的に示し加ふるに新手工の理想的經濟新設備の實例と費用を示してゐる

六版 奈良女高師教諭兼訓導 横井曹一先生著 兒童藝術
粘土彫塑と木彫
定價一・五〇 送料〇・〇八

□學習主義に基く兒童生活の立體的表現なる
□手工指導の新指針である。
□手工教育の根本的改革の叫びあり否先驅的實際的記錄である。
□著者の作品など數多の寫眞を以て載せられてゐる。

五版 東京女高師訓導兼教諭 山形寛先生著 最新 手工教材
きびがら細工
定價二・〇〇 送料〇・一二

□きびがら細工は手工教材の革命兒である。
□本書はきびがら細工の創始者山形先生の苦心研究になる唯一の良書である。
□作品六十餘圖の挿畫は實物に倣ふ藝術味と雅致を有す。其の製作説明一々頗る懇切。

最新刊 文部省督學官 九州大學教授 小出滿二先生著
農業教育
定價二・五〇 送料〇・一六

□著者は我が國農業教育の最高權威である。
□九大勅任教授と文部省教員檢定委員の重職にあり、而も農業科實業學校の最高唯一の教員に關する幾多の論文を添へてある
□本書は先生の農業教育に關する最高唯一の著書で尚有益なる

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
（直接註文一手取扱）大阪市南區・内安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

教育書は東洋圖書

最新刊
文部省實業補習教育主事 千葉敬止先生著
高等小學 **農業指導書** 上下二冊
定價各二・五〇 送料各〇・一六
□文部省制定の新高等小學農業科教授要目作成の委員が其趣旨により指導書を編纂さる
□指導の方法と内容の解説とを巧に織混ぜ、説明懇切、挿繪多く、必要用具をも示す。
□實驗實習を特説して實地指導に便にした。

最新刊
文部省實業補習教育主事 松本喜一先生 足達丑六先生 共著
高等小學補習學校 **商業指導書** 上下二冊
定價各二・五〇 送料各〇・一六
□本書は文部省の商業教授要目案に準據し其委員たる著者が商業科の教材及び指導法の解説書として編述されたものである。
□圖解、諸樣式等を例示し内容豐富、説明懇切にして實地指導上の良參考書である。

五版
奈良女高師 石澤吉麿先生著
教授
家事學習上の諸問題
定價三・五〇 送料〇・一八
□先生は斯界に於ける我が國の權威で其の深き造詣と廣き研究とは周知の事である。
□本書は先生が家事學習の各方面大小幾多の事實問題につき詳細懇切なる解決を與へられたもので家事學習上類例なき良書である。

九版
奈良女高師 清水訓導其他執筆
木下主事序
各科 **學習指導案實例集**
定價三・五〇 送料〇・二三
□學習主義の教育は今や全世界を風靡す。
□本書は東京女高師・東京兒童の村小學校・奈良女高師の三學校三十有七名の先生が各其の得意とされる各科の學習指導案を詳記されたる實際的實例である。
□全教案を下し教育界を風靡した學習法につき最後の斷案を下したものである。眞に學習法の精華である。
□學習法につき内外表裏の觀察と其の妥當なるや否やとを詳説し何人にも之が運用の妙を一讀明瞭ならしめたものである。

五版
奈良女高師 塚本清水 山路 鶴居 井上 横井 幾尾 共著
學習指導 **各科批評眞髓**
定價二・八〇 送料〇・一六
□本書は學習指導研究會が各高師訓導指導の下に編纂せる一大力作で、尋一教育に關する資料を蒐集し加ふるに其の取扱法につき詳述せる眞に初等教育家座右の友として至便なる一大寶典である。

五版
學習指導研究會編
學習本位 **尋一教育資料大集**
定價六・五〇 送料〇・二四

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文一手取扱)大阪市南區・内安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

東洋圖書の教育書

學生參考書・物語書・其他

五版
第二高等教授 東北帝大講師 佐藤充先生著
高等教育 **物理學** 上卷 下卷
定價各四・五〇 送料各〇・二〇
□從來の高等物理學は尨大で讀み難く要領を得難く又高價であつたが本書は讀み易く要領得易く又廉價である。□内容には最新發達の部面を詳述し又索引並に復習問題を特設し大學受驗文檢受驗用に便してある。

最新刊
東洋大學教授 關寛之先生著
高等教育 **心理學**
定價二・五〇 送料〇・一六
□本書は高等學校・大學像科・師範專攻科・高等師範等の生徒用教科書として編纂されたる最新の傑作書である。
□著者は本邦心理學界の泰斗であり且本書は東洋大學其他にて教科書に用ひられてゐる。

最新刊
中村邦治先生著
女子 **物理學講義**
定價二・七五 送料〇・一六
□女學生を本位とし判り易く親切に説き殊に原理や定理には念を入れ應用を自在にし物理學は教科書を全部參酌して參考とし現行女子學校の教科書を全部參酌して參考となるべき事項を殆んど網羅された。
□練習問題を隨所に挿入し自學自習に便す。

十六版
愛知一中 中山久吉先生著
教授問題本位 **最新化學**
定價一・二〇 送料〇・一三
□受驗必勝合格の鍵實力鍛練の捷徑の最良書として化學全體を問題と便なる模範答案とを編纂した。
□過去二ケ年化學習整理に便なるよう能も最近五ケ年の高校其他入學試驗問題を基とし最近五ケ年の問題に付新傾向を示す

十版
東京高師 佐藤良一郎 山本政治 鍋島信太郎 松尾正夫 四先生共著
教授模範 **代數講義** 上下 補習 三卷
定價上一・五〇 下一・八〇 補習一・五〇 送料〇・一六
□代數學講義の最高權威書＝學科の本質と指導法の妙とを極めて平易に系統的に詳解せられた良書。□代數を初めて學ぶ人、既に學びたる人の學習復習整理の好伴である。

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文一手取扱)大阪市南區・内安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

教育書は東洋圖書

十版 清水英一先生著 **數學史物語** 定價二・五〇 送料〇・〇六

□無味乾燥の算術に興味を添へ情味を加へ算術好きにする數學史にしくはない。□本書は數學の發達及發明發見につき極めて興味深く書いたもので數學を授くるもの學ぶ者の必讀の良書である。

五版 宮道馨先生著 **理化學史物語** 定價二・五〇 送料〇・〇六

□本書三十章に收めた物語は重要にして興味あり而も日常生活に關係の深いものばかりで平易に人物本位に歷史的に述べた良書□尙卷末には最新世界理化年表として大小の發明發見の物語が年代的に纒めてある。

六版 白井繁太郎先生著 **東洋史物語** 上卷 下卷 定價各二・四〇 送料各〇・〇六

□世界最古の文明を產んだ東洋の歷史―現代文化の源を明にすべき通俗の良書である。□史實に立脚して趣味深き物語體とし適切なる年表を加へて錯雜せる事件を明瞭にし我が國史と比較對照せる一大良書

最新刊 文學博士澤柳政太郎先生序 成城學校訓導松本浩記先生編 **兒童副修身書** 尋四 尋五 尋六 定價各〇・五五 送料各〇・〇六

□澤柳博士は本邦修身教育界の大先達で常に教育界の指導者であつた。□博士の經營されてゐた成城學校では普通の修身書を用ひず本書を使つてゐる。□この副修身書がどれだけよい本であるかゝお分りにならう。

三版 東洋大學教授法政大學教授 小林好日先生著 國語資料 **現代詩鑑賞** 定價二・五〇 送料〇・〇六

□文學は人生の餘技ではない人生其のものゝ表現であり人間の批判であり人生の省察である。□本書は詩の味ひ方新體詩自由詩民謠童謠短歌泰西名詩篇の研究等現代詩のあらゆる方面に研究を及ぼした良書である。

十二版 奈良女高師前教官 永田與三郎先生著 新聞記事を說明したる **經濟の話** 定價二・二〇 送料〇・〇六

□朝日新聞、每日新聞の經濟欄を寫眞として引用し、獨特の方法にて通俗的に說明され經濟入門書として之に勝る書なしとの定評あり。□恐く著者の體驗を敎育的の說明を以てした比類なき良書である。

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文一手取扱)大阪市南區・內安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

東洋圖書の教育書

六版 關西學院教授 砂川寬榮先生著 實力養成 **學生新學習法** 定價〇・六〇 送料〇・〇六

□競爭激甚の今日眞の學習法を會得し全我を伸ばすものが最後の勝者である。□本書は新教育の精神を如實に示された良書で此を會得すれば誰人し自ら伸び自ら太る獨學者の指針たるのみでなく處世の必讀書

賜台覽 奈良女高師前教授 錦織竹香先生著 古今 **服裝の研究** 定價三・五〇 送料〇・三〇

□本書は斯界の權威錦織先生の苦心努力になる本邦唯一の服裝に關する名著で我が國太古より現代に至る服裝の總てを網羅し出典正しき數十の挿畫は一目記事を明かにし裁縫歷史の研究家庭學校の良參考書である。

三版 最新 奈良女高師前教諭 上島直之先生著 **歐米教育の實際** 定價二・八〇 送料〇・〇六

□奈良女高師前教諭たりし先生が、先に命により親しく英・米・獨・佛に遊學され專ら其初等教育、補習教育の實際を研究されたる結果を公にされたるもので、其の精細と深淵とを極めた點に於て他に例を見ない。

三版 京大教授 小西重直先生序、青木文子女史抄譯 **母より先生へ** 定價二・五〇 送料〇・一四

□譯者青木夫人は母となる前後子供の問題についてこの原著ほど暗示と開發とを與へたものはありません と申してをられる。□小西博士は子供を眞の子供にまで育てあげる情熱の巨火であると推奬してをられる。

四版 奈良女高師訓導 池田こぎく先生著 **私の教育記錄** 定價二・八〇 送料〇・〇六

□敎育の根本態度に初まつて、敎育上の改革方針と其の實例とを獨特の名文を以て示され。□更に其體驗されたる合科學習の實際を丹念に記錄されてゐる。□言々句々何物かを暗示する力の充ち滿ちた名著。

三版 奈良女高師前教官 永田與三郎編 大正初等教育史上に殘る人々と其の苦心 定價二・五〇 送料〇・一六

□明治の模倣を脫却し學習主義敎育の殿堂を開いたのは幾多實際家の努力の賜である。□本書は記する二十餘家の表面華々しき成果の裏面には慘憺たる苦心を祕めてゐる。此尊敬すべき記念塔は後進者指導の無二の良書

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文一手取扱)大阪市南區・內安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

教育書は東洋圖書

中等教科書

四版

奈良女高師教授 秋草ちか先生 中原イネ先生 共著
寫眞による **作法實習記録** 定價〇・五〇 送料〇・〇四
□我が國古來の崇高優雅な作法中特に古典的代表たる本膳の饗應につき一々詳細な寫眞により一目瞭然たらしめたものである。
□本膳饗應の什器を初め進撤の次第、食事の作法・献立・料理法のすべてを詳説す。

文部省檢定濟

奈良女高師教授 高村與三松先生 清水與三郎先生 共著 臨時定價一・二 送料〇・一三
女子 **新物理學教科書**
□奈良女子高等師範學校の代表教科書
□最新女子教育の發達に恰適の良書、
□自學自習實力鍛錬に便利に編纂さる
□五年制女學校には最も好都合の教科書
□四年制の女學校には自學資料を與ふ。教材の省略表により自學自習心を養ふ便あり。

奈良女高師教授 清水與三郎先生 高村與三松先生 共著 臨時定價一・四五 送料〇・一三
女子 **新化學教科書**

檢定不要

奈良女高師教授 清水與三郎先生 著 臨時定價〇・七八 送料〇・一〇
女子 **新化學實驗書**
□前掲女子新化學教科書の姉妹篇である。
□化學實驗の高潮は最近女子教育の新傾向にて理化學の進歩と女子向上の結果である。
□教師が實驗し生徒は本書に筆記しても有効
□文部省檢定不要、參考用なら府縣屆書不要

五版

奈良女高師教授 須山法香齋先生 著 臨時定價〇・四九 送料〇・〇六
投入れ盛り **花の活け方**
□奈良女高師の代表教科書なり同校附屬高女、附屬實女にて採用す。
□一流に偏せず各流共通の基礎事項を網羅す
□價低廉にして而も生涯携帶し得る美本。
□女學校活花教科書の外一般參考書に良し。

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文一手取扱)大阪市南區・内安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

皇族殿下の賜覽台

文部省御認定・名溪會御推奬
兒童讀物の オーソリチー

學習資料
百科全書

日本一を期したる學習資料兒童參考書—內容充實して平易、體裁優美にして堅牢

奈良女高師前教諭 及川久太郎先生 著 **兒童の物理學**
奈良女高師前教諭 及川久太郎先生 著 續 **兒童の物理學**
奈良女高師前教諭 及川久太郎先生 著 **兒童の化學**
奈良女高師前教諭 及川久太郎先生 著 **兒童の電氣學**
奈良女高師前教諭 及川久太郎先生 著 **兒童のラヂオ**
奈良女高師前教諭 仲本三二先生 著 **兒童の數學**（幾何篇）
奈良女高師前教諭 仲本三二先生 著 續 **兒童の數學**（代數篇）
奈良女高師前教諭 仲本三二先生 著 續 **兒童の數學**（算術篇）
奈良女高師教授 木枝增一先生 著 **兒童の國文學**

定價各册 壹圓八拾錢 • 送料八錢

一名兒童百科全書と稱し、逐次各科に亘りて刊行、一册にても良書揃へば尙良書

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文一手取扱)大阪市南區・内安堂寺町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

皇族殿下の賜台覽

文部省御認定・茗溪會推奬

兒童讀物のオーソリチー

最良は最後の勝利—駄本續出の今日本書のみ燦然として光彩を放つ

學習資料

百科全書

奈良女高師教授 神戸伊三郎先生著
兒童の植物學

奈良女高師教授 神戸伊三郎先生著
續兒童の植物學

奈良女高師教授 神戸伊三郎先生著
兒童の動物學

奈良女高師教授 神戸伊三郎先生著
兒童の昆虫學

奈良女高師教授 神戸伊三郎先生著
兒童の鑛物學

奈良女高師教授 桑野久任先生著
兒童の生理學（榮養篇）

奈良女高師教授 桑野久任先生著
兒童の生理學（活動篇）

奈良女高師教授 西田與四郎先生著
兒童の地文學

奈良女高師教授 清水半吾先生著
兒童の天文學

定價各册 壹圓八拾錢 • 送料八錢

體育の必須書—本當の實力養成に肝要にして而かも無二の參考書

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌

（直接註文—手取扱）大阪市南區內安堂寺町一丁目•振替大阪三九五五六番

291
80

3 年 6 月 11 日

終